

JJS 開発教育ワークショップ (研究授業)



Lengkese 村 (南スラウェシ州ゴワ県マリノ)

平成 17 年 11 月 18 日

ジャカルタ日本人学校

JJS 開発教育¹ワークショップ

はじめに

近年の「開発」では、リゾート開発、ゴルフ場開発、工業開発などといった工業化推進による経済成長（経済開発）から、地球環境、平和や人権、といった諸問題が開発援助をめぐる問題と密接に関係していることが問われるようになり、人を中心とした人間開発、能力開発などという社会開発への重要性が認識されている。それに伴い開発途上国の問題を先進工業国の人々が理解し、援助への理解と協力を推進してきた「開発途上国への援助教育」（援助に対する理解の推進）の考えから、地球社会に暮らす人々が先進工業国による「過剰開発」にも配慮しながら、すべての国・地域で貧困や格差、抑圧のない新しい地球社会を創っていく取り組み（先進工業国が途上国に対し援助するという開発のあり方を考える教育）へと変化している。

これら「開発のあり方」を見つめなおす手段としては、開発問題などの理解とその解決を目指す活動となる「開発教育」があり、多様性の尊重、開発問題の現状と原因、地球的諸課題の関連性、世界と私たちのつながり、私達の取り組みを、ひとりひとりが、よく知り、理解し、自分の問題として考え、その解決に向けて行動していくことが求められている。

「開発教育」の推進は国境を問わず、インドネシアにおいても重要であり、世界で起こっている貧困・飢餓、紛争・戦争、環境破壊、人権侵害といった問題が、インドネシア滞在を含む日本の社会のあり方や自分達の生活とも深く関係している。

一方、限られた期間にインドネシアに滞在するという条件下においては、まだまだ誤解や偏見、無関心、思いこみ外国や外国人を理解することは困難である。

インドネシア・ジャカルタで生活する日本人にとって、インドネシアにも自分と同じように家族があり、その地域にあった営みをしている人たちの存在を知り、いろいろな立場、状況を理解することは、インドネシアでおきている出来事を一時的にインドネシアに滞在している自分と関連づけて「考え」・「見つめ直し」・「行動する」ことを助長し、地球規模で物事を考えていく機会となり、自分のためだけの価値観から、地球規模の価値観に切り替える努力（機会）を推進することが期待される。

平成 17 年 10 月 26 日
JICA 技術協力プロジェクト
「市民社会の参加によるコミュニティ開発」
国家開発計画庁（BAPPENAS）
コミュニティ開発アドバイザー
西田 基行

¹ 「開発教育」という言葉は、英国など欧州で使われている「Development Education」という英語を日本語に直訳したものです。ただし米国の場合は「Educational Development（教育の発展）」と表現されるのが一般的のようですが、これは「Development」と「Education」がいずれも「本来もっている能力を引き出す」という意味をもっているので、並列するのは反復と感じられたからなのかもしれません。

「開発教育」は、今日では、開発問題などの理解とその解決をめざす教育活動ということが出来ます。つまり、開発教育の「開発」は元来は開発途上国における経済開発と結びついていたのです。開発教育は、1960 年代に南北問題に対する関心が高まる中、途上国での開発協力活動にかかわっていた欧米の NGO などによって始められました。そして、1970 年代以降、欧米各国では政府や国際機関が開発教育を支援するようになり、学校教育の中へと広がっていきました。現在日本国内では外務省、JICA をはじめ開発教育協会、開発教育を考える会、全国国際教育研究協議会、日本国際理解教育学会、国内大学、国際理解研究所などが中心となって開発教育を推進しています。

件名： 開発教育ワークショップ
「もし世界が 100 人の村だったら？」（インドネシア国編）

目的： インドネシアの現状をシミュレーションを通じて体感し理解と認識を深める。
参加型手法を通じて個人が培ってきた知識を活かして理解、考察する力を養う。
（知ること、考えること、変わり行動すること）

活動内容と個別目標

1. アイスブレイキング
「行ったことのある所、行ってみたい所」
参加者同士の雰囲気を和らげ、ワークショップでの発言、行動を活発にすることを目的とした簡単なアクティビティを行う。
2. シミュレーション
「インドネシアがもし 100 人の国だったら」に描かれた世界の現実を、疑似体験という方法で経験し、インドネシアには多様な言語や文化を持つ人々が住んでおり、そこには大きな貧富の格差が存在することを体験的に学び、私達が暮らす環境（どこに位置されているか）について考える。
3. フィードバック
ワークショップを通じて得た新しい発見を参加者間で発表することでコミュニケーション力を養う。
また、ワークショップの参加前・後で気付いたことを共有し、今後の観察力に役立てる。

日時： 平成 17 年 11 月 18 日（金曜日） 6 時限目

場所： 中学校 2 年 1 組教室

参加者： 生徒、教員

ファシリテーター： 西田 基行（JICA 専門家）

参考資料・出典

開発教育・国際理解ハンドブック（外務省）

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kk_krk/kyouzai/handbook/index.html

探検しようみんなの地球（外務省）

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>

僕ら地球調査隊（国際協力機構）

<http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>

インドネシア統計資料（インドネシア中央統計局：BPS）

<http://www.bps.go.id/index.shtml>

Country Profile（世界銀行インドネシア事情）

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/EASTASIAPACIFICEXT/>

作業シート

第1節 アイスブレーキング

<ねらい>

参加者同士の海外での経験を共有することを通して、インドネシアには様々な地域があり、人々の暮らしが多様であることを確認する。

<所要時間> 10分～15分

<方法>

1. 参加者各自にポストイットを配布する。
2. 各自インドネシア国内の訪問したことのある地域について「自分の名前」「いつ、どのくらい」「誰と」「何をした」を明記し、発見したこと（任意）を追記する。
3. インドネシア地図に各自貼付する。
4. 発見したことを記入したカードを選択し記入者の意見を聞く。

<留意点>

1. インドネシアの国内移動に関しては、修学旅行、トランジット等についても受け付け、生徒全員が貼付できる環境を作り配慮する。
2. 貼付したポストイットを手短に紹介し、「発見したこと」の記載のあるカードを選び記入者への説明を求める。（ただし情報の精度を求める作業ではない）
3. 出来るだけ多くの意見を出す。
4. また、同一地域での異なる発見などについては、複数の発見を聞き出し、視点の違いなどについて考えてみる。

<まとめの留意点>

インドネシア国内における民族移動（旅行、移住を含む）については、スカルノハッタ空港の年間利用者 700 万人に対し、スラバヤ 300 万人、バリ島 150 万人であり、ジャワ島を中心とした国内移動が絶対数となる。

ジャワ、バリ地域に集中している国内移動は同時にシミュレーションのインドネシア概要と密接な関係にあることから、アイスブレーキングの結果を次のセッションの導入に利用するなどの工夫が必要である。

次のセッションへの導入例：

「それではインドネシアの人口分布はどの様になっているか考えてみてください。」

<用意するもの>

1. インドネシア地図
2. ポストイット
3. マジックペン
4. セロテープ（ポストイットの粘着が不十分なとき）

作業シート

第2節 シミュレーション²

「世界がもし 100 人の村だったら」（インドネシア国編）に描かれた世界の現実を、疑似体験という方法で経験することがねらいである。インドネシアには多様な言語や文化を持つ人々が住んでおり、そこには大きな貧富の格差が存在することを体験的に学び、私達が暮らす環境（どこに位置されているか）について考える。

<構成と所要時間> 20 分～25 分

各テーマの所要時間は以下のとおり。

参加者の反応に合わせてテーマを変えて考えてみる。

1	インドネシアの人口（今と 30 年前）	5 分
2	男性と女性	5 分
3	大人と子ども	5 分
4	大陸（広さ）、民族と言葉	5 分
進行に合わせて関心事項を優先に実施する。		
5	住宅事情（住居、電気、飲料水）	5 分
6	教育格差（義務教育と識字率）	5 分
7	医療格差	5 分
8	インフラ事情（交通、通信）	5 分

<各テーマの進行方法>

1. インドネシアの人口（現在と 30 年前）

<クイズ>

@30 年前のインドネシアは何人くらいでしょうか？

参加者全員が現在の 2 億人として何人が存在していないか？または増えているか？

答え 119, 208, 229 人
(25 人中 12 人が着席)

<解説のポイント>

近年 50 年間で人口増加率は顕著であり、同時に人口増加に関連する諸問題を考えてみる。

人口増加→食糧不足→食料増産→農地開発→水利用の増加→

と反対に人口増加→雇用拡大→工業開発→耕作地減少→食料不足→

2. インドネシアの男性と女性（都会と田舎）

<クイズ>

@インドネシアの男女比はどうなっていると思いますか？ また、田舎に住んでいる人は何人くらいでしょうか？

答え 男性が 68 万人多い
(25 人中のため男性 13 人、女性 12 人とする)
Urban / Rural 比
(田舎暮らしは 25 名中 14 名となる)

² ある事象をモデル化、単純化して、それを擬似的に体験することをシミュレーションという。開発教育の中では、ある事象を擬似的に体験することで、問題を明らかにするとともに、学習者がそれを“実感”として認識するための有効な手段として、シミュレーションが使われている。

<解説のポイント>

男女比は人数ではなく、どの様なところに、どの様な役割を果たしているかという点を考えてみる。25人中、地方都市部では男性が多く、都市部では女性が多いことなど。

<留意点>

インドネシアにおける統計データの特徴として、都市、地方の双方別々のデータを集計³していることを予め説明すること。

3. 大人と子供

<クイズ>

@インドネシアの65歳以上は一体何人いるでしょうか？

答え 10,226,067人が65歳以上（全体の0.05%）
（25人中1人が老人）

<解説のポイント>

年齢別人口は、15歳未満を子ども、65歳以上を大人と設定して集計されている。

同時に、日本の例と比較してみる。

いずれも25名のクラスで表現してみる。

インドネシア 子ども 7人、職業年齢 17人、お年寄り 1人

日本 子ども 4人、職業年齢 17人、お年寄り 4人

（2000年国政調査資料）

4. 大陸（広さ）、民族と言葉（アイスブレーキングの結果を引用）

<クイズ>

@ジャワ島には何人の人が住んでいるでしょうか？

答え 121,352,608人
（25人中15人がジャワ島となる）

@「民族の言葉でいっせいに挨拶してみましょう!!」

<解説のポイント>

人口密度との関係性を明確にし、同時に天然資源管理範囲の広さを再認識する。

大陸の広さを現すために、15名のジャワ島の広さを1（新聞紙2枚）として、他の地域にも新聞紙を渡す。

5. 住宅事情（住居、電気、飲料水）

<クイズ>

@飲料水（水道から安全な水が出る）が飲めない人は何人いるでしょうか？

答え 99,000,000人
（25人中11人は水道設備がない）

<解説のポイント>

飲料水＝各戸配水ということを考えると同時に各戸配水でないが、住居、電力についての格差についても考えてみる。

インドネシアにおける貧困指標（1日1ドル以下、栄養210cal、教育、家屋の状態、衣服の有無、宗教の時間の有無）についての説明も補足すると良い。

³ インドネシアの統計データ集計では、1.人口密度（500人以下～8,500人以上）、2.農家人口（70%以上～5%以下）、3.施設（幼稚園、小学校、中学校、市場、映画館、商店街、病院、ホテル（ビリヤード、ディスコ、マッサージ、美容院）、電話普及率、電化率）の3つのカテゴリーに変数を設け、総得点の半数以下の地域を“地方”と定義している。

6. 教育格差（義務教育と識字率）

<ゲーム>

ブギス文字を提示する。（ブギス文字には「座ってください」と書いてある）

座っている非識字者は何人いるか考えてみる。

答え 9% 約 20,000,000 人が非識字者
(25 人中 2 人が未反応)

<解説のポイント>

続いて、学歴順に着席を促し、最後まで立っている人が、どの大陸の誰かを見る。

<留意点>

連鎖反応に留意し、ファシリテーターは非識字者を把握しておくこと。

7. 医療格差

<クイズ>

@病院が無くても病気が治る人は何人いるでしょうか？

答え 国民の 17%が伝統医療に依存
(25 人中 4 名が対象)

<解説のポイント>

医療アクセスは、伝統医療等の利用者の数よりも、設備の整った病院に通院できる人が全人口の 46%であることを考えてみる。

8. インフラ事情（交通、通信） （要統計資料確認）

<クイズ>

@飛行機を利用したこと、車を所有している人は何人いるでしょうか？

答え 累計で年間 20,000,000 人（航空利用者数）
車両登録台数年間 22,985,193 台
(25 人中 1 名が該当する)

<解説のポイント>

利用者はわずか 1 名であるが、「ほかの人たちはなぜ必要がないか？」考えてみる。

<留意点>

1. インドネシアにおける地域間格差は当面の重要課題であると同時に、ジャワ島を中心とした経済開発に対するネガティブな印象を与えることに留意する。
2. 混雑する都市部を地方からどの様に見えたか小数派の意見を多く聞きだす。
(例) パプアのダニ族は 30 年前にも存在しているにも関わらず、病院、教育、インフラが整備されていない。更には平均 3%の人口増加が継続している。その一方新聞の広さ（天然資源の量）は？
3. 各テーマの説明にあたり関連する統計データを予め用意し、意外性を考えてみる。(例) 新聞普及率よりも TV の普及率が多い理由など

<用意するもの>

1. 役割カード
2. 統計資料（ワークショップ終了後に配布）
3. 民族がわかるしるし（民族紹介の写真などがあれば用意する）
4. 新聞紙（大陸の広さを表現する、ない場合は紐を利用し大陸を作る）
5. クイズ解答用紙兼フィードバックシート（終了後回収）
6. メモ帳、筆記用具（各自用意）

<まとめ>

本シミュレーションで求められることは、「教えられる」「やらされる」のではなく、「創造を最大限活かし思わず夢中になってしまう世界」を提供することにある。

作業を通して、豊かさや貧しさを「実感」すること。そして最後に、現実の生活の出来事と照らし合わせてみて、インドネシアの貧困や社会環境、天然資源が、日本人として豊かなジャカルタ生活を送っている自分自身の行動に起因しているということに自ら「気づく」というところにある。

作業シート

第3節 フィードバック

<ねらい>

作業を通じて感じたことをお互いが発表し、インドネシアの多様性、地域格差についての体験を内在化・内面化（Internalize）する。

<所要時間> 5分～10分

<方法>

1. 予め配布したクイズ解答用紙に感想を書く
 - ✧ 自分の予測の的中率を振り返る
 - ✧ 異なる回答についての理由を考えてみる
2. はじめて知ったことを書いてみる
 - ✧ 知らなかった理由を書く
 - ✧ その結果に対する感想を書く

<留意点>

1. 進行状況上、時間的に余裕があれば、大陸別に分かれてグループで意見をまとめてみる。（グループ内での意見交換により自分の意見を確認できる）
その場合ジャワ島については人数の関係上、民族別に分けたほうが効率的である。
2. 感想を宿題とすることは可能だが、ワークショップの評価に鑑み、生徒の回答率は予め把握しておくが良い。「たくさん当たった人」「当たらなかった人」などの簡単な質問を行う。

<用意するもの>

1. 筆記用具

以上

Population of Indonesia by Province

Province	Population		Population	
	1971		2004	
Nanggroe Aceh Darussalam	2,008,595	1.685%	4,075,599	1.9%
Sumatera Utara	6,621,831	5.555%	12,068,731	5.6%
Sumatera Barat	2,793,196	2.343%	4,528,242	2.1%
Riau	1,641,545	1.377%	5,679,643	2.6%
Jambi	1,006,084	0.844%	2,619,553	1.2%
Sumatera Selatan	3,440,573	2.886%	6,596,057	3.0%
Bengkulu	519,316	0.436%	1,541,551	0.7%
Lampung	2,777,008	2.330%	7,028,388	3.2%
Kep. Bangka Belitung	-		1,012,655	0.5%
DKI Jakarta	4,579,303	3.841%	8,725,630	4.0%
Jawa Barat	21,623,529	18.139%	38,472,185	17.7%
Jawa Tengah	21,877,136	18.352%	32,397,431	14.9%
DI Yogyakarta	2,489,360	2.088%	3,220,808	1.5%
Jawa Timur	25,516,999	21.405%	36,396,345	16.8%
Banten	1,473,804	1.236%	9,083,144	4.2%
Bali	2,120,322	1.779%	3,393,620	1.6%
Nusa Tenggara Barat	2,203,465	1.848%	4,076,040	1.9%
Nusa Tenggara Timur	2,295,287	1.925%	4,139,206	1.9%
Kalimantan Barat	2,019,936	1.694%	4,010,338	1.8%
Kalimantan Tengah	701,936	0.589%	1,867,231	0.9%
Kalimantan Selatan	1,699,105	1.425%	3,219,398	1.5%
Kalimantan Timur	733,797	0.616%	2,761,575	1.3%
Sulawesi Utara	1,718,543	1.442%	2,154,235	1.0%
Sulawesi Tengah	913,662	0.766%	2,245,242	1.0%
Sulawesi Selatan	5,180,576	4.346%	8,342,083	3.8%
Sulawesi Tenggara	71,412	0.060%	1,911,103	0.9%
Gorontalo	-		896,004	0.4%
Maliku	1,089,565	0.914%	1,238,812	0.6%
Maluku Utara	-		896,235	0.4%
Papua	92,344	0.077%	2,502,262	1.2%
INDONESIA	119,208,229	100.000%	217,072,346	100.0%

217.099.346



役割カード

性別	都市・地方	年齢	日本の場合	30年前	地域	言語	挨拶	住居	医療	教育	情報		読み書き
男性	農村	大人	大人	存在します	フローレス	クパン語	バエバエコ	川の水	伝統医療	無学校			非識字者
男性	農村	大人	大人	存在しません	スマトラ	ミナンカバウ語	アポコノイジャン	共同水汲み場	クリニック	小卒以上	ラジオ・TV		識字者
男性	農村	大人	大人	存在しません	ジャワ	ジャワ語(中部)	ピエカバリ	井戸水	クリニック	小卒以上	ラジオ・TV		識字者
男性	農村	大人	大人	存在しません	ジャワ	ジャワ語(中部)	ピエカバリ	井戸水	クリニック	寺子屋	TV		識字者
男性	農村	子ども	子ども	存在しません	パプア	ダニ語	ネンダ	川の水	クリニック	就学中			識字者
男性	農村	子ども	お年寄り	存在します	スマトラ	バタック語	ホラス	水道水	伝統医療	就学中	TV		識字者
男性	都会	お年寄り	お年寄り	存在します	ジャワ	ジャワ語(東部)	アポカバリ	水道水	病院	高卒以上	ラジオ・TV		識字者
男性	都会	大人	大人	存在しません	スラウエシ	ブギス語	アガカレバ	水道水	クリニック	高卒以上	TV		識字者
男性	都会	大人	大人	存在します	スマトラ	バタック語	ホラス	水道水	病院	小卒以上	ラジオ・TV・新聞		識字者
男性	都会	大人	大人	存在しません	ジャワ	ジャワ語(東部)	アポカバリ	水道水	病院	高卒以上	ラジオ・TV・新聞	車・飛行機	識字者
男性	都会	大人	大人	存在します	ジャワ	スندا語	クマハカバルナ	水道水	病院	中卒以上	ラジオ・TV		識字者
男性	都会	大人	大人	存在します	ジャワ	スندا語	クマハカバルナ	水道水	病院	中卒以上	ラジオ・TV		識字者
女性	農村	大人	大人	存在しません	ジャワ	ジャワ語(中部)	ピエカバリ	井戸水	クリニック	小卒以上	TV		識字者
女性	農村	子ども	お年寄り	存在します	スラウエシ	マカッサル語	アパカレバ	共同水汲み場	クリニック	小卒以上			識字者
女性	農村	子ども	大人	存在しません	スマトラ	ミナンカバウ語	アポコノイジャン	井戸水	クリニック	就学中	TV		識字者
女性	農村	子ども	子ども	存在しません	ジャワ	ジャワ語(中部)	ピエカバリ	井戸水	クリニック	就学中	TV		識字者
女性	農村	子ども	お年寄り	存在しません	ジャワ	ジャワ語(中部)	ピエカバリ	川の水	伝統医療	無学校	TV		非識字者
女性	農村	子ども	子ども	存在します	カリマンタン	ダヤック語	ナラエカバレ	共同水汲み場	伝統医療	就学中			識字者
女性	都会	大人	大人	存在しません	スマトラ	バタック語	ホラス	水道水	病院	小卒以上	TV		識字者
女性	都会	大人	大人	存在しません	ジャワ	ジャワ語(東部)	アポカバリ	水道水	病院	高卒以上	ラジオ・TV		識字者
女性	都会	大人	大人	存在します	ジャワ	ジャワ語(東部)	アポカバリ	水道水	病院	高卒以上	ラジオ・TV・新聞		識字者
女性	都会	大人	大人	存在します	ジャワ	スندا語	クマハカバルナ	水道水	病院	中卒以上	ラジオ・TV・新聞		識字者
女性	都会	大人	大人	存在します	ジャワ	スندا語	クマハカバルナ	水道水	病院	中卒以上	ラジオ・TV・新聞		識字者
女性	都会	大人	大人	存在します	ジャワ	スندا語	クマハカバルナ	水道水	病院	小卒以上	ラジオ・TV		識字者



PKPM Secretariat
No.23 Jalan Cirebon, Menteng, Jakarta 10310
Tel +62-21-3190-3862 / Fax +62-21-314-3641

☆「市民社会の参加によるコミュニティ開発技術協力プロジェクトホームページ」
<http://project.jica.go.jp/indonesia/0061565E0/>

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 大人（日本の場合: 大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 フローレス
6. 言語 クバン語
7. あいさつの言葉 バエバエコ
8. 住居 川の水
9. 医療 伝統医療
10. 教育 無学校
11. 情報
12. あなたは文字が読めません。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 大人（日本の場合: 大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 スマトラ
6. 言語 ミナンカバウ語
7. あいさつの言葉 アボコノイジャン
8. 住居 共同水くみ場
9. 医療 クリニック
10. 教育 小卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ
12. 

この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 大人（日本の場合: 大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語(中部)
7. あいさつの言葉 ピエカバリ
8. 住居 井戸水
9. 医療 クリニック
10. 教育 小卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ
12. 

この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 大人（日本の場合: 大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語(中部)
7. あいさつの言葉 ピエカバリ
8. 住居 井戸水
9. 医療 クリニック
10. 教育 寺子屋
11. 情報 テレビ
12. 

この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：子ども）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 パプア
6. 言語 ダニ語
7. あいさつの言葉 ネンダ
8. 住居 川の水
9. 医療 クリニック
10. 教育 就学中
11. 情報
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：お年寄り）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 スマトラ
6. 言語 バタック語
7. あいさつの言葉 ホラス
8. 住居 水道水
9. 医療 伝統医療
10. 教育 就学中
11. 情報 テレビ
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 お年寄り（日本の場合：お年寄り）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（東部）
7. あいさつの言葉 アボカバリ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 高卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 スラウェシ
6. 言語 ブギス語
7. あいさつの言葉 アガカレバ
8. 住居 水道水
9. 医療 クリニック
10. 教育 高卒以上
11. 情報 テレビ
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 スマトラ
6. 言語 バタック語
7. あいさつの言葉 ホラス
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 小卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ・新聞



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（東部）
7. あいさつの言葉 アボカバリ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 高卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ・新聞



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。



役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 スンダ語
7. あいさつの言葉 クマハカバルナ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 中卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 男性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 スンダ語
7. あいさつの言葉 クマハカバルナ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 中卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（中部）
7. あいさつの言葉 ピエカバリ
8. 住居 井戸水
9. 医療 クリニック
10. 教育 小卒以上
11. 情報 テレビ



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

13

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：お年寄り）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 スラウェシ
6. 言語 マカッサル語
7. あいさつの言葉 アパカレバ
8. 住居 共同水くみ場
9. 医療 クリニック
10. 教育 小卒以上
11. 情報



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

14

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 スマトラ
6. 言語 ミナンカバウ語
7. あいさつの言葉 アボコノイジャン
8. 住居 井戸水
9. 医療 クリニック
10. 教育 就学中
11. 情報 テレビ



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

15

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：子ども）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（中部）
7. あいさつの言葉 ピエカバリ
8. 住居 井戸水
9. 医療 クリニック
10. 教育 就学中
11. 情報 テレビ



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

16

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：お年寄り）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（中部）
7. あいさつの言葉 ピエカバリ
8. 住居 川の水
9. 医療 伝統医療
10. 教育 無学校
11. 情報 テレビ
12. あなたは字が読めません

17

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 農村
3. 年齢 子ども（日本の場合：子ども）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 カリマンタン
6. 言語 ダヤック語
7. あいさつの言葉 ナラエカバレ
8. 住居 共同水くみ場
9. 医療 伝統医療
10. 教育 就学中
11. 情報
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

18

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 スマトラ
6. 言語 バタック語
7. あいさつの言葉 ホラス
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 小卒以上
11. 情報 テレビ
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

19

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在しません
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（東部）
7. あいさつの言葉 アボカバリ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 高卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ
- 12.



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

20

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 ジャワ語（東部）
7. あいさつの言葉 アボカバリ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 高卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ・新聞



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

21

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 スンダ語
7. あいさつの言葉 クマハカバルナ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 中卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ・新聞



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

22

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 スンダ語
7. あいさつの言葉 クマハカバルナ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 中卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ・新聞



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

23

役割カード

1. 性別 女性
2. 住んでいる所 都会
3. 年齢 大人（日本の場合：大人）
4. 30 年前 存在します
5. 地域 ジャワ
6. 言語 スンダ語
7. あいさつの言葉 クマハカバルナ
8. 住居 水道水
9. 医療 病院
10. 教育 小卒以上
11. 情報 ラジオ・テレビ



この表記は「座ってください」という意味です。
これを見せられたらその通りにしてください。
このことは、他の人には言わないでください。

24

JJS 開発教育ワークショップ報告書



平成 17 年 11 月 24 日

於 ジャカルタ日本人学校

国家開発計画庁
市民社会の参加によるコミュニティ開発技術協力プロジェクト
コミュニティ開発アドバイザー
西田 基行

はじめに

平成 17 年 11 月、日本人学校中学部の要請を受け、道徳（国際協力）の授業におけるインドネシア理解教育の一環としてワークショップを開催した。

本授業は「道徳」～国際協力～を通じてインドネシア国ジャカルタ日本人学校の子どもたちの考察力の推進を図り、未来の国際協力について地球規模で考える機会を提供することを目的としている。

なお、本ワークショップにおいては 1 時間という限られた時間であったことからインドネシアの現状についてシミュレーションを通じて体感し理解と認識を深めることを重点にした作業を行った。同時にワークショップを通じて「市民社会の参加によるコミュニティ開発」プロジェクトの専門家業務についての理解を深めるようファシリテートした。

1．日時 平成 11 月 18 日（金） 第 6 時限（13:10～13:50）

2．場所 インドネシア国ジャカルタ日本人学校 第 2 多目的室

3．参加者

ワークショップ参加 JJS 中学部 2 年 1 組者 24 名

川喜田奈美、河原由真、久木原史佳、小林鮎実、島津咲希、島村貴子、中村優里菜、西田沙椰、山寺美帆、山根夏実、和田ひかり、村林久子、坂田安堯、杉浦高士、高尾智和ウィジャヤ、林秀明、眞裏幸聖、松井玲於奈、松本淳、松本義貴、美濃龍、森田浩嵩、山本浩樹、松山宙央

山岸律子（JJS 中学部 2 年 1 組担任）

岡田健太郎（ジャカルタ新聞）

JJS 教諭

4．ワークショップ内容

開発教育ワークショップ

「もし世界が 100 人の村だったら？」（インドネシア国編）

導入）アイスブレーキング（10 分）

インドネシア国内で「行ったことのある所」を各自ポストイットに氏名を記入しインドネシアの地図に貼付した。

シミュレーション（30 分）

「インドネシアがもし 100 人の国だったら」に描かれた世界の現実を、疑似体験という方法で経験し、インドネシアには多様な言語や文化を持つ人々が住んでおり、そこには大きな貧富の格差が存在することを体験的に学び、私達が暮らす環境（どこに位置されているか）について考える。

- ・ 人口・性別
- ・ 地域
- ・ 民族・言語
- ・ 居住環境
- ・ 保健・医療
- ・ 教育（識字）
- ・ 情報・交通インフラの現状

ふりかえり（5分）

フィードバックシートを用いて各自ワークショップの感想を記入

5. ワークショップ成果

自己紹介＋＋

クラス担任の紹介後にワークショップを開始。

はじめに、ワークショップへの集中、関心を高める作業を行った。

「インドネシアを知っている」という問いに対し半数が挙手をためらうことが確認され、同時に「知りたい」という好奇心が向上した。

参加型（自立・自発）を導く5つの要素

If I listen to it, I will forget it

If I see it, I will remember it.

If I write it, I will know it.

If I find it, I will use it.



* ワークショップにおけるファシリテーターは「先生」ではないことから、生徒ではなく「参加者」と呼び、授業は「作業」という点を前もって説明したところ、ワークショップ終了後のフィードバックシートの感想では多くの生徒が「作業」と表現していた。

アイスブレーキング

日本人学校に通う子どもたちにとってインドネシアは、一時的に滞在している地域・国であり国内の旅行もまた海外旅行の一部でしかない、従って国内移動の経験に至っては、観光地等の限られた地域と予測される。（過去にインドネシア人を対象とした作業においても同様）
ポストイット貼付の結果については、ほとんどの子どもがジャワ島、バリ島に集中しており、ワークショップ開始直後の質問「インドネシアを知っている」に対する回答が、実体験（実際に自分の目で見た）に基づいていない点を参加者一同が共有できた。



シミュレーション（30分）

インドネシア国中央統計局の 2000 年人口センサスの結果をもとに、関連するデータを 24 名で表現（1 名約 900 万人または 4.17%に相当する）し 24 枚の役割カードを作成、各自に配布し役割カードの記載事項に従い、24 名となったインドネシアでの割合を体感した。

- ・ 人口・性別に関しては、都市部よりも農村部の人口が多いことや農村部では男性が都市部では女性が多いことなど地域性が分かるように説明。同時に高齢化については日本の人口比率と比較するなどしてインドネシアにおける人口分布を表現した。

- ・ 地域の表現は、新聞紙を用いて国土の広さ及び人口密度を表現した。

インドネシアにおける人口格差は顕著なため、

1. スマトラ
2. カリマンタン
3. ジャワ
4. バリ・ヌサテンガラ
5. スラウェシ・マルク・パプア

の5つの地域とした。

(写真)



- ・ 民族・言語では、役割カードに記載されている民族の言葉で挨拶を交わしインドネシアの多様性を表現した。
- ・ 居住環境では、飲料水確保の方法や地域の特性に含めて水道普及の重要性について表現した。
- ・ 保健・医療では地域別に医療アクセスの現状を表現した。

- ・ 教育（識字）ではブギス文字を利用し「座ってください」の紙を示し非識字者の現状を体感した。同時に教育の現状を表現した。

(写真)



- ・ 情報・交通インフラの現状については航空機の年間利用者数、車両の年間販売台数を参考に表現した。

ふりかえり（5分）

ワークショップに参加した感想を各自フィードバックシートに記入。全体的に自分で動く「ワークショップ」は好意的に受け入れられており、同時に「作業の楽しさ」についてのコメントが多かった。

6. 振り返り（成果達成の要因、反省と課題）

準備

本ワークショップの開催にあたり、2年1組では予め「世界がもし100人だったら」のビデオ上映を行っており国際協力に対する関心が高まっていたため生徒の積極的姿勢が見受けられた。

また、当該学年は JICA インドネシア事務所の協力で国際協力への進路相談（2004 年内藤所員） JICA 専門家活動発表を行っていたことからワークショップ開始後の JICA 紹介や自己紹介の時間が節約された。

教材

本ワークショップでは開発教育で用いられる「世界がもし100人だったら」を題材に人口約2億17百万人のインドネシアをシミュレーションした。世界63億の人口の分布と比較するとインドネシアにおいてはジャワ島を中心とする豊かな社会が顕著に見られた。そのためシミュレーションでは特に地方の貧困地域がクローズアップされるに至ってしまった。また、交通インフラ等については中央統計局の人口センサスでは十分に把握できていないデータもあることから（累計の情報がなく単年度の集計がほとんど）24名で表現した場合の比率が顕著に低くなった。

進行

当初計画においては、個別の設問について時間をかけて説明する作業を予定していたが、子どもたちの積極的な行動に解説の時間を割り役割表にあるデータすべてを表現した。

なお、地域表現では各地域を新聞を用いて表現する作業を行ったが、作業の進捗に鑑み特にインドネシアの地理どおりに並べるなどの指導は行わなかったため、インドネシアの地理的配置等についての体感の効果は少なかった。

課題

・ テーマの絞込み

「インドネシアを知っている」という点について各自振り返る動機付けにはなったが、個別設問の解説が少なかったため各 이슈について十分に考えることが出来るよう設定することも検討される。

例：開発と飲料水、開発と資源、地域と資源、人口と産業など

・ 時間

1時限で作業を終えるには設問が多く、インドネシア各地の具体的な文化・生活について学習する要素が少なかったため、地域特産、民下品等などの紹介も併せて実施することなどが検討される。

（当日は、ヌサテンガラ州イカット、パプア州冠、ペニスケース、民族の帽子などを予め準備していたが紹介する時間がなかった。）

- ・ 人数

2 億 1 7 百万人のデータを 24 名に当てはめた場合、パプア州などの人口の少ない地域は 1/24 名分に満たないデータもあり統計データの精度的な面については若干煩雑になるとともに、地域によっては保健・教育、インフラの状況が全く反映されず、未整備、未サービスという印象を受ける地域が存在するためインドネシア国内の地方部に対する誤解が生じる。(フィードバックシートにおいても若干名が、地方は貧しいとコメントしている)

地域資源にも配慮したファシリテーションが必要であったと考える。

7 . 所感

ジャカルタ日本人学校で行った「ワークショップ」では 2 年 1 組の生徒のインドネシアを知ろうとする動機付けには十分な成果が得られたと考える。また、JICA の専門家(特にファシリテーターという指導分野)の業務について具体的なイメージが理解されていない点などについて実際に村で行う作業の類似を教室内で行ったことから「参加型農村開発」「コミュニティ開発ファシリテーター」という指導分野、職種などについての理解を得ることが出来たと考える。

同時に今回実施した作業は誰にでも出来る簡単な作業であることから、他の教員からもワークショップマニュアル等の入手についての問い合わせが後を絶たないであり、本ワークショップに用いた資料は配布用として修正し広く活用できるようまとめたいと思う。

8 . さいごに

本ワークショップにあたり、ジャカルタ日本人学校、JICA インドネシア事務所の理解と協力を得て、無事実施することが出来ました。

2 年 1 組山岸律子教諭をはじめ、ワークショップに積極的に参加して下さいました 2 年 1 組の生徒の皆様、ありがとうございました。

9 . 資料

JJS 開発教育 TOR・ワークショップマニュアル(インドネシア国版)
フィードバックシート一覧総括表
報道記事(ジャカルタ新聞)

以上

平成 17 年 11 月 18 日

ワークショップ振り返り（参加者の声）

1) 作業の感想を教えてください。

- ✚ インドネシアには色々な人がいて、それぞれ違う生活をしているのだなと思った。
- ✚ 楽しくやりながら、いろいろ学べた。
- ✚ インドネシアを知ることができた。
- ✚ とっても面白かった。（3 名）
- ✚ 思ったよりも作業が楽しかった。
- ✚ 自分で作業をしたので記憶に残るしわかりやすかった。
- ✚ あまり豊かじゃないと思った。
- ✚ 最初 12 枚の新聞で 1 人で独占して少し緊張した。とても楽しかった。
- ✚ 楽しかった。自分がとても豊かな環境にあることが分かった。
- ✚ とってもわかりやすく、楽しかった。
- ✚ 1 億や 2 億などといった大きくて実感がわかなかったのが、わかりやすくなってよかった。
- ✚ 貧乏な国だなあと考えた。
- ✚ 分かりやすかったです。お年寄りにもっといるかと思った。
- ✚ インドネシアのことではじめて知ったことがたくさんありました。
- ✚ インドネシアのことを前より知ったのでよかったです。
- ✚ とても楽しかった。新聞に地域ごとに分けたりしてとてもわかりやすかった。約 2 億のところを 24 人にすると、どれだけ少ないのか、などということが良くわかった。
- ✚ 分かりやすいし、楽しめた。今回の作業でインドネシアについて新しいことを知れた。
- ✚ 都会の方に住んでいると、高級住宅街ばかりしか見ていないので、田舎の方の現状はあまり知らなかったけどクラス 24 人をたどってくれたことで、いろいろ知ることが出来た。
- ✚ インドネシアの状況が知れたりしてとても楽しかった。
- ✚ かなり縮小していたからわかりやすかった。いろんな所に動いたから運動になった。
- ✚ わかりやすく、インドネシアの事がわかった。
- ✚ いろいろ知らないことがあって 10 年以上もインドネシアにいるのにびっくりしました。とてもわかりやすくて楽しかったです。
- ✚ 今まで知らなかった事がいっぱいあった。インドネシアについていろいろ知った。
- ✚ インドネシアについて今まで知らなかったことが色々分かった。まだまだたくさん知らないことがあると思うので調べてみたいと思った。

2) 今日の作業を通じて「へえ～」と思ったことはなんでしたか？

- ✚ 飛行機などに乗れる人は全体の 10% だったこと。
- ✚ ジャワがとっても小さかったのに驚いた。
- ✚ カリマンタンには水道がない。
- ✚ 思ったよりもインドネシアの人口密度の差が大きいことがわかった。
- ✚ 飛行機や電気を使える人が全人口の 10% しかいないこと、ラジオよりテレビのほうが多い。
- ✚ カリマンタンに住んでいる人が特に少ないと思った。
- ✚ ジャワ島は多い。
- ✚ 飛行機に乗ったことのある人がとても少ないのに驚いた。
- ✚ カリマンタン島には土地がたくさんあるのに人口が少なかったので驚いた。
- ✚ 同じインドネシアでもこんなに人口密度が違ったこと。
- ✚ 学校にさえ行けない子もいるんだなぁとビックリした。
- ✚ あいさつもいろいろあるんだなと思いました。高卒以上の人が少なかったこと。
- ✚ 1 クラスでやって一人しかあてはまる人がいないのとか驚きました。
- ✚ 飛行機や、車に乗れるのは 24 人中 1 人しか乗れないことには驚いた。インドネシアでは車でしか移動できないから、もっと多いかと思った。
- ✚ 人口密度、テレビ、ラジオ、新聞、飛行機などの利用率。
- ✚ 車や飛行機にのったことがある人が 1/24 (10%) なのは、とてもおどろいた。
- ✚ 飛行機などに乗れるのが 24 人中 1 人で全体の 10% って事がびっくりした。
- ✚ 24 人 1 人しか車や飛行機に乗れないのが一番驚いた。
- ✚ 恵まれた環境に住んでいる人が少ないなーと思った。
- ✚ 24 人中 1 人しか車に乗れないということ。私たちは当たり前でも実際すごく恵まれているんだな・・・。
- ✚ インドネシアでは、高卒以上が少ししかいないことに驚いた。
- ✚ 言語が沢山あること。交通機関を利用できる人が 10% しかいないこと。

3) 「あれ？ちょっと違うのではないか」「もっと調べてみたい」と思ったことはありましたか？

- ✚ 何故、貧富差がすごいのかもっと知りたいと思った。
- ✚ インドネシア以外の国でのこういうことを調べてみたい。
- ✚ 教育について学校に行ける人もいれば文字が読めない人まで様々だが、どうしてそんなに行ける人と行けない人の差が激しいかについて
- ✚ カリマンタンの人口をジャカルタとくらべてみたい。
- ✚ インドネシアだけでなく世界のことも調べてみたい。
- ✚ 伝統医療とは何か調べてみたい
- ✚ インドネシアの人々の生活はどんな家とかどんな暮らしをしているか調べたい。
- ✚ 言葉はもっとあるのか調べたい。
- ✚ インドネシアは、なぜ日本と違って老人が少ないのかということをもっと調べてみたい。
- ✚ 水をどこから得ているか。
- ✚ どうしてラジオよりもテレビのほうが普及しているのか、上と下の生活はどのくらいはなれているのか
- ✚ 1 家族は何人になるかなど調べてみたい。
- ✚ ジャワの水道水はどこからの水なのか？
- ✚ 同じ国の人なのになぜ地域ごとで人口密度の差が大きいのか調べてみたい。

4) ファシリテーターへのお願い、質問(文句もOKです)

- ✚ インドネシアは何故、こんなにきたないのか？
- ✚ 今度また来ていろいろ教えて下さい。
- ✚ もう一回やりたい、多人で
- ✚ 今度はもっと多くの人でやってみたい。2
- ✚ 今日はありがとうございました。
- ✚ 泳げる人はどれくらいいるんですか？
- ✚ インドネシアについて教えてくれてありがとうございました。インドネシアについて調べてみます。
- ✚ インドネシアについてよくわかりました。ありがとうございました。
- ✚ がんばって下さい
- ✚ 今まで、どのような人々を見てきましたか？
- ✚ 今度は中学部全体でやってみたくなりました!!楽しかったです、ぜひまた来てください!!
- ✚ また来て下さい! そしてもっといろんな事を教えて欲しいです!
- ✚ これからも頑張ってください。今日はありがとうございました。
- ✚ これからも頑張ってください。
- ✚ とても楽しかったし、中学部全体でもやって欲しいです。今日はありがとうございました。
- ✚ これからも、頑張ってください。
- ✚ もっと沢山の人達にインドネシアのことを教えて欲しいです。

平成 17 年 11 月 19 日（土）
ジャカルタ新聞紙



	感想・よかった点・参考になった点	提案・悪かった点・分らなかったこと(知りたいこと)
1	よかった。	
2	世界では5秒に1人は、死んでいたということが分り、驚きました。	世界はいくつの言葉があるか知りたいです。
3	僕は、日本人で豊かな暮らしをしているけれど、苦勞している人がたくさんいるんだなあと思いました。	
4	南アジアの中で僕とほとんど逆で貧しいところがありました。同じ地域でもいろんな国があると分りました。昔は30億人だけだったけど今は60億人もいるから食料や温暖化で困っているんだなと思いました。	
5	お金持ちの人もいれば、ぜんぜん金がない人もいます。金がない人のほうが外国では多い。	
6	飲料水や衛生状態がない人が地球に多くいることが分りました。アジアでお金持ちの人は日本人だと知って本当にビックリしました。	なぜ、日本人がお金持ちだったのか、もっとくわしく知りたい。
7	世界は貧しい人と裕福な人がいることが分った。水が飲めない国もあって大変だと思った。	貧しい国のことをくわしく知りたいと思った。
8	飲料水が飲めない国があるなんて知らなかったのによく分った。あと衛生状態が悪い国があることも分った。	どうして日本はお金にも食糧にも困っていないか。
9	男女の数は同じ、普通の国にも貧しい人はいる。赤道より南の人のほうが貧しい。	どの国に長生きが多いか？
10	アフリカは衛生状態や飲料水があまりよくないことが分りました。	
11	やっているうちに、僕はゲームでは貧しい人だということが分った。いい体験が出来てよかったです。	
12	世界には貧しい人がけっこういると分った。	今日は世界には貧しい人がすごくと分ったから、これから貧しい国などを調べたい。
13	こういうゲームとかやって楽しかった。アジアには貧しい人が少ないと分った。	
14	世界には色々な言葉があり200カ国ぐらいの国があると知った。アジアには、たくさんの人たちがいる。	グリーンランドは何大陸なのか？
15	世界にはいろんな人がいるんだなあと思いました。	国は何こあるのか知りたい
16	自分が立ったり、座ったりすることで世界の一員であるということを実感できました。	調べてみようの記入のしかたが、いまひとつ分りませんでした。
17	中国は意外と貧しい国だということが分った。アジアの中で生活が豊かなのは日本だけということが分った。	中国は本当にキリスト教を信じているのか？仏教じゃないのか？
18	ヨーロッパは先進国で飲料状態や衛生状態に困っていないことが分った。女性と男性の割合が同じことが分った。	
19	この世の中、日本はあまり貧しくないからいいけど、他の国に行けば貧しい人は多いんだなあと思った。	世界のいろんな情報をもっと聞きたい。
20	アフリカは全員貧しいことと男が多いことが分った。アフリカは貧しい割には飲料水が飲めることが意外だった。	
21	世界の人口は65億いると分った。アジアでは1人先進国がいると分りました。アジアの人は日本語であいさつをする人がいると分った。	あまりないです。
22	考えてみれば、貧しい人は多いんだな～、自分は幸せだ。	フランス人がオーストラリアに降りた理由。深い理由がありそうだが。
23	国ごとに、貧しいところや裕福なところがあった。私がやったアフリカは全員が貧しいということでアフリカは貧しい生活を送っているんだなあと思った。	
24	アメリカの人はすごいとお金持ちだと思いました。	識字者というのがわからなかった。
25	世界の地図のことを分った。	飲料水と衛生状態があまりわからなかった。
26	西田さんがいろんなことを教えてくれて分りやすかった。普段は知らなかったことも分ったので良かった。先進国の人は少なかった。(アジアの人)ヨーロッパの人は4人中3人もいた。	
27	飲料水、衛生状態、先進国が全部当てはまっているのがしゃべったのが日本語なのは驚いた。	飲料水も衛生状態もいいのになぜ途上国なのか分らない。先進国だと思った。
28	アジアで日本だけが先進国だということを知ってビックリしました。ほかの国から見れば私たちがそんないい暮らしをしていたなんてビックリしました。	
29	日本はとても豊かだということが分りました。南アメリカは日本のように豊かじゃないということは知っていたけれど、衛生状態が悪いなんて知らなかったです。	
30	アジアの中で先進国は日本だけなんてビックリしました。あと世界の中には、安全な水が飲めない人もたくさんいるんだなあと思いました。	識字者というのは何かなあ。とこのカードをみて思いました。
31	私は水を飲むなんてふつうだと思っていたのに水を飲むのも大変な国があるなんてビックリしました。	日本は途上国か先進国か知りたいです。
32	世界にはちゃんと水が飲めることが出来ない人もいるのが驚い性別以外では立たなかったの、飲料水、衛生状態等の体に関係することには恵まれているのだなあと思いました。(キャラクターでは)	中国は信じているのは仏教じゃないのか？
33		途上国と先進国の多さがあってなんでなのかと思いました。

感想・よかった点・参考になった点

提案・悪かった点・分らなかったこと(知りたいこと)

1	世界のことをたくさん話してくれた。とてもよく分った。国をつくってみて世界の状況がよく分った。私ももっと頑張らないといけないなあと思いました。もっと授業をしたくなった。	
2	世界には途上国ばかりで、なのに日本は先進国ということがビックリしました。 飲料水がぜんぜん飲めない国があってかわいそうだった。	
3	今日の授業で、国々のことがいっぱい分った。 新聞四枚で作った大陸の上にあんなにいっぱい人が住んでいるとは思わなかった。 とても楽しかった。	
4	途上国がかなり多いのに驚きました。アジアでは日本以外の国が途上国だということもはじめて知りました。	
5	外国(東アジア)のことが①～12まで、どこの国々も違っていて、変わっていると思った。 アジアは一まとめしたら一番大きいように見えたり、国の大きさと面積は少し変わっている。	
6	世界の中で先進国が少なく、途上国がほとんどだということが分かりました。 日本に生まれた私は恵まれているなあと思いました。	
7	私はアジアについて調べたりして、アジアにはきれいな水を飲んだり出来ない人が思っていたよりたくさんいてビックリしました。 それと人口と面積も一番広いということが分かりました。	
8	今日は知らない国の人になってとても探すのが大変でした。 アジアは大切な国？と分かりました。	
9	アジアの中で日本だけが先進国ですごくいいと思いました。 陸地とか人口の割合もしっかりわかってよかったです。 今までは大体知っていたような気がするけど、こういうやり方でやってしっかり分ったのでよかったです。またこういう授業をやりたい	
10	アジアでは日本しか先進国が無いのはビックリしました、てっきり中国や韓国もそうだと思っていました。 世界ではこんなに困っている人がたくさんいることを知り、どうにかしなければいけないと思います	
11	世界には途上国が多かった。 日本はすごかった。	
12	世界の人口や貧しい国がよく分ったと思う。 飲料水の飲めない国もあることが分った。	
13	自分達で地球の国々を作ってみておもしろかったし、位置などがわかった。 世界にはいろいろな人々がいることが分った。	
14	世界にはいろいろな人々がいることが分った。 アジアには人が多すぎる！ 日本に生まれてよかった。	
15	面積が最も広い国などが分ってよかった。	
16	私は普通に生きているのに他の国の人たちはとても大変だと思いました。 日本に生まれて本当によかったと改めて思いました。 これからは水の使いすぎや募金をしたいなあと思いました。ありがとうございました。	
17	面積が広い国などが分ったのでよかったです。	
18	アジアのことを調べた。 アジアの中で日本だけが先進国だということが分った。	
19	途上国がすごく多く日本は幸せに暮らしているので日本に生まれてよかったと思いました。	
20	いろいろな国があると思いました。	
21	世界にはいろいろな人々がいることが分った。	
22	私は社会は苦手だけど、とても楽しく勉強できました。	
23	世界の国々の特色を知ることができました。 アジアの人々がとても多くビックリしました。	
24	世界の国のことについてよく分った。	
25	世界の国々の特色のことが分かりました。 私はアフリカのことがよく分ってよかったです。	
26	国土の面積はオーストラリアのほうが大きいのに、人口が日本の方が多いのに驚いた。	
27	アジアで裕福なのは日本だけということが分った。 日本に生まれてよかったと思った。	
28	アジアには日本しか先進国がないなんてはじめて知りました。 アジアにはものすごい量の人が住んでいると思いました。	
29	色々調べておもしろかった。 アジアの中で日本だけが先進国なんだと思った。	
30	意外と調べたりするのが難しかった。 貧しい国はかわいそうだなと思いました。 日本は幸せだなと思いました。	

	感想・よかった点・参考になった点	提案・悪かった点・分らなかったこと(知りたいこと)
1	思ったよりアジアの人口が多く、貧しい人も多くてビックリ。日本は結構ゆうふくな国と思った。だからもっと水などを大切にしたいと思った。	同じアメリカなのにどうして北アメリカは先進国で(裕福)、南アメリカはこんなに貧しいのか？
2	今日は世界で安全な水を飲めない人、衛生状態の悪い人がこんなにいるということが分かりました。	識字者がどれだけいるか知りたいです。
3	やはりアジア大陸は地球の大陸の中で一番多い国だから人口も多いと思った。	同じアメリカなのに南アメリカは貧しくて北アメリカは裕福なのか？
4	大陸が違っていろいろな国の言葉がいろいろな大陸に移っていてすごいなあと思った。	宗教の事がもっと知りたい。
5	今日はアジアの役をやったけどこんなに多いなんてビックリした。これから世界のことについて調べてみたい。	「食糧危機」とかいう言葉をチラッと聞いたことがあったのでそのことについて知りたい。
6	立ったり座ったり大変だった。そして水が無いのも大変だと思った。	特にありません
7	アフリカで水を飲めるのはあまりいなかった。昔より今のほうがすごく人が住んでいる。	あまりありません。よく分かりました。
8	世界のことがよく分った。自分が自分じゃなく他の人になって自分の国のことを紹介するのが楽しかった。	まだこの国のお金が足りないか全部はわかんないので知りたい。
9	今日の授業で、水が飲めない人、病院に行けない人がどの国にどのくらいいるのかがとてもよく分かりました。	特にありません
10	自分達で立ったり、座ったりして、地球のことを分ってとても楽し	アジアにいろいろな国の人が来るのは何でかなと思いました。
11	世界に、こんなにたくさん途上国で生活に困っている人たちがいることをしてびっくりしました。あと、世界が違って同じ言葉をしゃべる所もあるんだと知りまし	識字者がどれだけいるかくわしく知りたいです。
12	年齢が子どもでも日本では大人なんてあるんだと分った。日本ではインターネットが簡単に使えても使えない国があるんだとわかった。	
13	今日の授業で水がすごい大切なことが分り家に水道が無く水がすぐに飲めない人がいるって事がわかりました。	特にありません
14	衛生状態が悪い人がこんなにたくさんもいるんだと思った。世界は貧しいんだと思った。	
15	南アメリカは衛生状態、飲料水などが多いとは思わなかった。	アジアでは、何教が一番多いのですか？
16	特にありません	特にありません
17	違う国で違う言葉をしゃべれる人がいるというのがすごいと思いました。	いろんな国の言葉を知りたいと思いました。
18	飲料水や衛生状態が悪い国が思っていたより多くで驚きました。	宗教はどこどの国にどんな宗教があるか知りたい。
19	いろいろの国のこと、人口、言葉などがよく分った。	将来どうなるか知りたい。
20	いろんな言葉が分った。	
21	いろいろな国の状況や言葉などがよく分った。もっとたくさんを知りたいと思った。	自分がなんという国か知りたい。途上国が将来どういう風になっているか見てみたい。
22	アジアは貧困の人が多い。アジアは人が多い。	
23	アジアの大陸にかなりの人がいて、しかも日本はその中で一番裕福な暮らしを子弟いてビックリした。	地方の言語が他の地方になぜ飛んだのかなと不思議に思った。
24	ゲーム形式のような感じで世界の人々のことを勉強できた、四人に一人は中国人というのはおもしろかった。	世界のインターネットのつながりを知りたかった。
25	南アメリカのほうは衛生状態などのことが悪いのでビックリした。	アジア州の総人口は何人ですか？
26	いろんな国の人数とか国の状態とかがよく分かりました～！	
27	オセアニアでもフランス語をしゃべるといことが分かりました。	特にありません
28	ここまで貧しいなんてかわいそうだなあっておもしろい。	ない
29	人口は増えていることがわかった。	途上国を知りたい。
30	アジア大陸の中国人の役が出来てとても楽しかったです。おもしろく勉強が出来とてもよかったです	なぜ、違う国の人が違うところに来たりするのか？
31	立ったり座ったりおもしろかったです。日本がひとつしかないのが驚きました。	何でアジアにはいろいろな国の人が来るのか不思議に思った。
32	アフリカで水が飲めなかったり薬が無かったりする人が6億人いたのが驚きです。僕はインターネットをよく使っているのに使えない人がいるのはショックでした。	

	感想・よかった点・参考になった点	提案・悪かった点・分らなかったこと(知りたいこと)
1	世界には豊かな国、貧しい国が分かれていっていると知った。コノ33人の中で少しの人しか30年前にいないことが分った。	インターネットは世界でどのくらいの人が使っているか？
2	もっと地球のことを覚えてうれしいです。 他の国はインターネットを使えないこと 嫌なことを思っている。	
3	日本は豊かな国でよかった。	
4	横井先生の話が関係ない上、つまらなかった。	北アメリカと南アメリカのほうが貧乏ってのが分った。 西田さんありがとー
5	他の国よりも、北アメリカとかは、豊かだなと思いました。	なし
6	地球のことがいろいろわかった。 日本以外のことがたくさん知れてよかった。	
7	自分の国じゃないのにいる人がいた。	横井先生:うるさい
8	飲料水、衛生状態、インターネットはほとんど悪い	日本の土地を広くしてください。 ヒンディー語で先生が今までに受けたギャグを言ってください。
9	みんなで立ったり、国ごと(大陸)で触れ合って楽しかったです。 先進国の人はすごく借金もちだったんだと思いました。 でも借金が無くても水も無く取りに行く人たちはかわいそうでした。	「30年前のあなたはいません」がむかつきました。
10	私たちはすごい裕福な生活をしていることがわかりました。 食べ物を食べられない人たちはかわいそう。	授業を真剣にやってください(横井先生) 授業時間に遅れないようにしてください。
11	今日、ゲーム形式でやって、すごく楽しかった。 日本はすごく幸せな国だと思います。 この地球には幸せな人や水が無くて苦しんでいる人がいるってことを学べてよかった。	
12	地球には65億人近くの人がいることが分った。 世界では貧富の差が激しくよくないなあとと思いました。	
13	世界には、水や衛生状態が悪いところが多いということが分りました。 いろんなこと飲料水、生成状態、インターネットをやって楽しかった	今の日本と昔の日本はどっちがいい環境ですか？ (いろんな意味で)
14	知っていると思っていたことが以外に分らなかった。 結構楽しかったです。	もう少しゲーム化するともっと楽しいと思います。
15	水道水が飲め衛生状態がよいことが分った。	世界には色々な環境があると思った。
16	僕たちが住んでいる日本は、世界で見ると数少ない豊かな国だということが分った。	アジア人はたくさんいるなー
17	違う国の言葉をしゃべる人もいることを知りました。	
18	今の日本ではありえないことがいっぱいあったのが分った～	今日のはとても楽しかったです。
19	私は今日一回しかたつたことで、色々分りました。(ブラジルに旅行するのは楽しいです) ブラジルには人数は何人ぐらいいますか？	アジア大陸は人数が多くて、飲料水が悪いし、衛生状態もあまりよくないことです。
20	北アメリカは他の国よりも幸せだと思います。	
21	いろんな国があって、世界には飲料水が少ないところや衛生状態が悪いところなどいっぱいあるんだなあとと思いました。	
22	日本はとても豊かな国だということが分りました。	世界のことももっとくわしく知りたい。
23	豊かだなあ・・・なんかゲーム(ネットとか)しているみたいだった。	横井先生に告ぐ!! マジメに授業して!
24	ロシア語のあいさつが分った	もっとボランティア活動を行いたい。 横井先生へ もっと楽しい授業して!!
25	世界には、豊かな暮らしをしている人や、貧しい人々が暮らしている衛生状態がよかったことです。	
26	暑くない	飲料水はどこの周辺が主にのめるのか(オセアニア地域)
27	飲料水と衛生状態がゼロでよかった。 アメリカは豊かだということが分った。 世界には水を安心して飲める人が少ないことが分った	区分が途上国だったこと。
28	日本は豊かなんだと知って、もっと食べ物や飲み物を大切にしたいと思った。 新たに知識が増えてよかったです。 ありがとうございました。	アジア狭いし。マジやだし、あーヨーロッパ行きてーオセアニア、パツキャロー
29	立ちまわった	この国さいてー
30	多くの人が豊かな暮らしを出来ていないというのが分った。	横井先生 僕をいじめないで

	感想・よかった点・参考になった点	提案・悪かった点・分らなかったこと(知りたいこと)
1	ヨーロッパは恵まれていることがわかった。 先進国は北にあることがわかった。	世界国々の言葉を知りたいです
2	いろいろな国のことがわかった。 先進国は北の方にあるんだ・・・「？」なことが多かったのが少し減り世界への知識が広がります。	「オラー」とかいろいろなあいさつがあつておもしろかった。 また見てみたいです。 またこの授業を受けたいです。
3	アジアは人口が多いことが分りました。	(人口)一番多いところはどこかもっと知りたいです。 また来てください。楽しい。
4	先進国は進み、恵まれている。 北の国は恵まれている。	スペイン語の「オラ」とポルトガル語の「オラー」はどう違うの？
5	アジアは男性が多い	ベンガル語はどこで使われている？
6	世界には安全でない国がたくさんあることを知った。	資料がない所はどうなっているのか知りたい。
7	世界にの国々についてのことがよく分りました。	もっとくわしく調べてみたいです。
8	アフリカ州、南アメリカ州は水や病院が無いことにビックリ。 こんなに多くの地域が大変になっていることに驚いた。	どうやって生活しているのか？
9	世界ではいろいろな人がいて、水の飲めない人などがいて大変だと思った。	
10	男性のほうが女性より多い。 30年前は今より人口が多い。	
11	世界には病院の無い国があるということをはじめて知りました。	
12	水が飲めなくて衛生状態が悪くてこういう国もあるんだなと思いま	
13	色々な国のことがわかった。 色々な国の言葉や宗教や飲料水など違うことが分った。 ヨーロッパはとても豊かなんだと思いました。	
14	アジアは女性より男性の方が多いことが分りました。 言語で違う国なのに同じことを言う国もあるんだなあとと思いました。	
15	ウルデウ語はどこの国で使われているのか？	水が飲めない人がいっぱいいるなんて知らなかった。
16	アジアは男性が多い。 水を飲めない人がいる。	途上国が何か？
17	国によって状況がきびしい所もあると知った。 恵まれた国は北に多い。 いろんな言語でひとつの国に住んでいることを知った。	
18	世界各国では、水を飲めない人がいっぱいいるとわかった。	
19	ヨーロッパや北アメリカでは、飲料水もあるし衛生状態があつていいなあと考えた。	
20	今日の授業で分ったことは、アフリカは以外に飲料水や衛生状態がないことが分りました。 やっぱりアジアは人口が大きいことも分りました。	
21	地球上には恵まれていない人がいっぱいいる。	氷が解けるとどうなるのか？
22	飲料水や衛生状態がないところがあることがよく分った。	
23	世界には半分近くの人が不便な暮らしをしていることが分った。	
24	はじめて知ったあいさつがあつた。	もっと知りたい
25	世界ではいろいろな国で困っている人がいるのがわかった。	もっと動物はどこの国に多いかをもっとやりたい
26	世界の国々でも恵まれているところがあれば水などが飲めない国(人)がいっぱいある。	
27	アジアには、薬や水、いろいろあるけど他の国はないところがあるからとても大変だなと思いました。	国の人口や、人々の暮らしなどを知りたい。
28	世界には水が飲めない人が多くいることが分った。	その水を飲めない人達をえんごするやり方などをくわしく知れた
29	同じ地球に住んでいても、豊かな国とそうでない国 水がまともにならないような国があることが分りました。	
30	他の国では飲料水がないところがあることを知った。	地球には何種類の言葉があるか知りたい。
31	世界には水も無く、生成状態が悪いところが分った。	

人口と面積

国（地域）	年央推計人口 (1,000人)		面積 (km ²)		人口密度
	2000	2003	2003	if 33 person	
世界	6,086,000	6,314,000	136,056,000		46
アジア	3,676,000	3,815,000	31,870,000	20.54	120
オセアニア	30,900	32,200	8,564,000	0.17	4
北アメリカ	489,000	505,000	24,490,000	3	21
南アメリカ	349,000	365,000	17,832,000	2	20
ヨーロッパ	728,000	729,000	22,050,000	4	33
アフリカ	812,000	868,000	30,250,000	5	29
		34		15.8	

a 常住人口。b 日本の「センサス人口」及び「推計人口」は総務省統計局「国勢調査 第1次基本集計結果」(平成12年, 17年)により, 2003年「推計人口」は「10月1日現在推計人口(補間補正人口)」による。日本の「面積」は国土交通省国土地理院「平成16年 全国都道府県市区町村別面積調」による。c 遊牧民を除く。d 東エルサレム及び1967年6月以降の占領地の自国民を含む。e 一部地域を除く。f ジャム・カンミールを含む。g パレスチナ難民を含む。h 台湾, 香港及びマカオを除く。j ジャム・カンミールを除く。k 1967年6月以降イスラエル軍によって占領されているヨルダン領を除く。定住しているパレスチナ難民以外の外国人を除く。m キャンプのパレスチナ難民を除く。n 「センサス人口」は台湾行政院ホームページにより, 外国人を含む。センサス人口以外は台湾行政院「Taiwan Statistical Data Book 2006」による。「年央推計人口」は年末人口で, 外国人を除く。p エルサレムに居住するパレスチナ人を除く。r 駐留軍を含む。s 先住民を除く。t 性別不詳を含む。u イギリス, アルゼンチン双方が領有権を主張。v 国外にいる自国の軍隊を含み, 国内にいる外国の軍隊を除く。w 国外にいる自国の軍隊を除き, 国内にいる外国の軍隊を含む。x アルセマス, カナリア諸島, セウタ, チャファリナス, バレアレス諸島, ペニョン・デ・ベレス・デ・ラ・ゴメラ及びメリリヤを含む。y コンボ及びメトピア自治州を除く。z フェロー諸島及びグリーンランドを除く。A 大使館及び領事館以外に住む外国の外交官を含む。B 民間の外国人を除き, 一時的に国外にいる民間の自国民を含む。C アゾレス諸島及びマデイラ諸島を含む。D 軍隊の家族, 短期滞在者等を除く。E 冬期のみ居住する人口。ノルウェーに重複して計上されている。

森林の面積	陸地面積	森林面積	陸地に占める割合	一人当たり	人口植林(ha)	減少率(%)
世界	13,063,900	3,869,455	29.6%	0.6	186,733	-0.2
アジア	3,087,746	547,793	17.7%	0.2	115,847	-0.1
北アメリカ	2,136,966	549,304	25.7%	1.1	17,533	-0.1
南アメリカ	1,754,741	885,618	50.5%	2.6	10,455	-0.4
ヨーロッパ	2,259,957	1,039,251	46.0%	1.4	32,015	-0.1
アフリカ	2,978,394	649,866	21.8%	0.8	8,036	-0.8
オセアニア	849,096	197,623	23.3%	6.6	2,848	-0.2

人口センサス

2-4 人口・面積(1)

国（地域）	年央推計人口 (1,000人)		面積 (km ²)	人口密度	
	2000	2003			
世界	6,086,000	6,314,000	136,056,000	46	※
アジア	3,676,000	3,815,000	31,870,000	120	※
北アメリカ	489,000	505,000	24,490,000	21	※
南アメリカ	349,000	365,000	17,832,000	20	※
ヨーロッパ	728,000	729,000	22,050,000	33	※
アフリカ	812,000	868,000	30,250,000	29	※
オセアニア	30,900	32,200	8,564,000	4	※

人口年齢構成

	15歳未満	34人中	65歳以上	34人中	中位年齢
世界	30.0%	10	6.9%	2	26.8%
先進国	18.3%	6	14.3%	5	37.3%
途上国	32.9%	11	5.1%	2	24.3%

男女比率

年 齢	世界 a			
	(2005国連推計)			
	男		女	
総 数	50.26%	3,248,919	49.74%	3,215,831
ア ジ ア				
日本 b	48.8%	62,349	51.2%	65,419
イラン b	50.7%	33,735	49.3%	32,745
インド c	51.7%	532,157	48.3%	496,454
インドネシア d	50.2%	100,935	49.8%	100,307
トルコ	50.5%	35,688	49.5%	35,025
ネパール b	50.0%	11,359	50.0%	11,378
パキスタン e	51.5%	68,769	48.5%	64,883
バングラデシュ	51.4%	57,314	48.6%	54,141
フィリピン b	50.3%	40,821	49.7%	40,261
北アメリカ				
メキシコ b	49.7%	51,845	50.3%	52,369
南アメリカ				
アルゼンチン	48.7%	17,659	51.3%	18,601
エクアドル f	50.2%	6,445	49.8%	6,398
コロンビア	49.4%	22,044	50.6%	22,540
ブラジル bgh	49.2%	83,576	50.8%	86,223
ヨーロッパ				
オーストリア b	48.5%	3,939	51.5%	4,179
オランダ b	49.5%	8,015	50.5%	8,177
ギリシャ j	49.5%	5,457	50.5%	5,567
スイス b	48.9%	3,560	51.1%	3,725
スウェーデン b	49.5%	4,418	50.5%	4,507
フランス bk	48.6%	29,044	51.4%	30,724
ベルギー b	48.9%	5,077	51.1%	5,299
ポーランド m	48.4%	18,493	51.6%	19,702
ポルトガル n	48.4%	5,048	51.6%	5,393
ルーマニア b	48.8%	10,606	51.2%	11,127
アフリカ				
ナイジェリア	50.1%	57,751	49.9%	57,474
南アフリカ	47.8%	21,434	52.2%	23,386
モロッコ	49.8%	14,972	50.2%	15,116
オセアニア				
オーストラリア b	49.6%	9,754	50.4%	9,909
ニュージーランド b	49.2%	1,971	50.8%	2,038

a 国際連合「World Population Prospects: The 2004 Revision」による。b 常住人口。日本は総務省統計局「平成17年 国勢調査」による。c マニプール州の一部地域を除く。ジャム・カシミールを含む。d 永住者のみ。e 部族地域を除く。ジャム・カシミールを除く。f 先住民を除く。g 国外にいる自国の軍隊及び国外にいる民間の季節労働者等を含む。h 遊牧民及び先住民を除く。j 国外にいる自国の軍隊を除き、国内にいる外国の軍隊を含む。k 大使館及び領事館以外に住む外国の外交官を含む。m 国内にいる民間の外国人を除き、一時的に国外にいる民間の自国民を含む。n アゾレス諸島及びマデイラ諸島を含む。

人口順位（世界 50 位）

順位	国	人口
1	中華人民共和国	1,298,847,624
2	インド	1,065,070,607
3	アメリカ合衆国	293,027,571
4	インドネシア	238,452,952
5	ブラジル	184,101,109
6	パキスタン	159,196,336
7	ロシア	143,782,338
8	バングラデシュ	141,340,476
9	ナイジェリア	137,253,133
10	日本	127,333,002
11	メキシコ	104,959,594
12	フィリピン	86,241,697
13	ベトナム	82,689,518
14	ドイツ	82,424,609
15	エジプト	76,117,421
16	イラン	69,018,924
17	トルコ	68,893,918
18	エチオピア	67,851,281
19	タイ	64,865,523
20	フランス	60,424,213
21	イギリス	60,270,708
22	コンゴ民主共和国	58,317,930
23	イタリア	58,057,477
24	大韓民国	48,598,175
25	ウクライナ	47,732,079
26	ミャンマー	42,720,196
27	南アフリカ	42,718,530
28	コロンビア	42,310,775
29	スペイン	40,280,780
30	スーダン	39,148,162
31	アルゼンチン	39,144,753
32	ポーランド	38,626,349
33	タンザニア	36,588,225
34	カナダ	32,507,874
35	モロッコ	32,209,101
36	アルジェリア	32,129,324
37	ケニア	32,021,856
38	アフガニスタン	28,513,677
39	ペルー	27,544,305
40	ネパール	27,070,666
41	ウズベキスタン	26,410,416
42	ウガンダ	26,404,543
43	サウジアラビア	25,795,938
44	イラク	25,374,691
45	ベネズエラ	25,017,387
46	マレーシア	23,522,482
47	中華民国	22,749,838
48	北朝鮮	22,697,553
49	ルーマニア	22,355,551
50	ガーナ	20,757,032

順位A	国または地域	面積(km ²)
1	ロシア	17,075,200
2	カナダ	9,984,670
3	アメリカ合衆国	9,631,420
4	中華人民共和国	9,596,960
5	ブラジル	8,511,965
6	オーストラリア	7,686,850
7	インド	3,287,590
8	アルゼンチン	2,766,890
9	カザフスタン	2,717,300
10	スーダン	2,505,810

人口推移

年	人口(億人)
1802	10
1927	20
1961	30
1971	40
1987	50
1999年10月12日	60

人口予測

年	人口(億人)
2010	68
2020	76
2030	82
2040	87
2050	91

世界人口(せかいじんこう)とは、ある時点において地球上に存在するヒトの数。アメリカ合衆国統計局の推計によると、世界人口は2006年2月25日に65億人に達した。

20世紀に人類は人口爆発と呼ばれる人類史上最大の人口増加を経験した。過去6000年間に存在した全ての人口のおおよそ5分の1が現在の人口である。

インターネット普及率

六大州

順位	州名	普及率(%)
1	オセアニア	51.77%
2	ヨーロッパ	32.02%
3	北アメリカ・南アメリカ	30.65%
4	アジア	8.29%
5	アフリカ	2.64%

国別（普及率50%以上の国）

順位	国名・地域名	普及率(%)
1	セントクリストファー・ネイビス	86.96%
2	ニュージーランド	81.95%
3	アイスランド	77.00%
4	マルタ	76.01%
5	スウェーデン	75.46%
6	デンマーク	70.00%
7	スイス	65.85%
8	大韓民国	65.68%
9	オーストラリア	65.28%
10	イギリス	63.27%
11	カナダ	63.01%
12	フィンランド	63.00%
13	アメリカ合衆国	62.28%
14	オランダ	61.63%
15	ルクセンブルク	59.00%
16	日本	58.69%
17	シンガポール	56.12%
18	バルバドス	55.35%
19	台湾	53.64%
20	エストニア	51.22%
21	ドイツ	50.00%

世界の貧困問題

34人中

貧困者率(世界)	発展途上国	18.7%	6
	先進国	81.3%	28

貧困者率	
アフリカ	46.5
東アジア	15.6
南アジア	31.1
ヨーロッパ・中央アジア	3.7
中東・北アフリカ	2.4
ラテンアメリカ	9.5

貧困とは？（貧乏）

1. 一日1ドル(108円)以下の収入＝¥3, 240
(4つの所得カテゴリー)

≤735 726≤2935 2936≤9075 9076≤
66ヶ国 52ヶ国 38ヶ国 52ヶ国

2. 識字率、小学校就学率

3. 5歳未満の乳幼児死亡率、医師の数、予防接種

ジニ係数:

所得または消費の全体配分の平等を計るもの。0%が平等、100%が不平等（日本24.9%、アメリカ40.9%）

人間貧困指標:

①40歳までの生存、②識字率、③安全な飲料水と年齢体重(低体重)

地球上では今、約5,000から6,000のことばが話されているといわれています。ことばはそれぞれの地域で育まれた独自の知恵と知識と想像力の宝庫であり、人々の生きた証しと経験を凝縮し、それらを伝え合うことを可能にしています。

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kurina/language.html>

水・保健医療と教育の問題（各国援助機関による報告書の発表）

- 10億人以上の人々がきれいな水の安定した供給を受けられない状態にあります。
- 劣悪な衛生状態にある人々の数は、世界人口の3分の1以上に当たる24億人にも達しています。
水の供給や衛生施設が不十分なために起こる病気が原因で、毎年220万人以上の人々が死んでいます。
水の供給や衛生施設を改善することによって防ぎうる病気のために毎日6,000人の子供たちが死んでいます。
毎年2億5,000万人以上の人々がそうした病気に苦しんでいます。
- 地球の表面の70パーセントは水で覆われていますが、そのうちの97.5パーセントは塩水です。残りの2.5パーセントが淡水ですが、その約4分の3が氷帽として凍結しています。
- 利用しうる淡水のおよそ70パーセントが農業のために利用されています。
しかし開発途上国では、農業のための灌漑施設が整備されていないので、用水の60パーセントは蒸発してしまうか、また川や地下水の帯水層に戻ってしまいます。
- 灌漑用の引水は1960年以来60パーセント以上も増えました。
- 現在世界人口のおよそ40パーセントが中程度から高程度の水不足の地域に住んでいます。
2025年には世界人口のおよそ3分の2—およそ55億人—がそうした水不足に直面すると予想されています。
- 20世紀には水の利用が6倍にもなりました。
これは人口増加の2倍の速さです。
- 漏水、違法な引水や浪費の量は、開発途上国において飲料に利用される水の量のおよそ50パーセントに相当します。
 - 開発途上国の下水のおよそ90パーセント、工業用水の70パーセントは処理されことなく排水されています。
 - 世界の湿地帯のおよそ半数がすでに失われ、1万種にのぼる淡水種の20パーセント以上が絶滅しています。
 - 1990年代に、開発途上国のおよそ8億3,500万人の人々が安全な飲料水にアクセスできるようになり、およそ7億8,400万人の人々が衛生施設にアクセスできるようになりました。

(国連広報局 DPI/2293B—December2002)

役割カード

	性別	年齢	先進国年齢構成	途上国年齢構成	30年前は？	地域		区分	言語	挨拶	読み書き	飲料水	衛生状況	Web	宗教
1	男性				まだいせん	アジア	南アジア	途上国	ベンガル語	アッサラムレイクム	非識字者	×	×	×	ヒンズー教
2	男性	子ども		子ども	まだいせん	アジア	南アジア	途上国	ウルデゥ語	ジュレ	識字者			×	ヒンズー教
3	男性	子ども		子ども	まだいせん	アジア	東南アジア	途上国	ジャワ語	スラマツシアン	識字者			×	イスラム教
4	男性			お年寄り		アジア	東南アジア	途上国	マレイ語	スラマツシアン	非識字者	△		×	イスラム教
5	男性	お年寄り				アジア	南アジア	途上国	テルグ語	ナマステ	識字者	△	×	×	ヒンズー教
6	男性	子ども		子ども		アジア	南アジア	途上国	ヒンディー語	ナマステ	識字者	×	×	×	ヒンズー教
7	男性	子ども		子ども	まだいせん	アジア	東アジア	途上国	中国語	ニーハオ	識字者	△	×	×	キリスト教
8	男性	子ども	子ども			アジア	東アジア	途上国	中国語	ニーハオ	識字者			○	キリスト教など
9	男性				まだいせん	アジア	東アジア	途上国	中国語	ニーハオ	非識字者			×	キリスト教など
10	男性				まだいせん	アジア	西アジア	途上国	トルコ語	マルハバ	識字者			×	イスラム教
11	女性	お年寄り	お年寄り			アジア	東アジア	途上国	韓国語	アンニョンハシムニカ	識字者			×	キリスト教
12	女性	子ども	子ども			アジア	東アジア	先進国	日本語	こんにちは	識字者			×	キリスト教
13	女性			子ども		アジア	南アジア	途上国	タイ語	サバイディーカッブ	識字者			×	仏教
14	女性			お年寄り		アジア	西アジア	途上国	ペルシャ語	サラーム	識字者			×	イスラム教
15	女性				まだいせん	アジア	東南アジア	途上国	ベトナム語	チャーオ	識字者	△	×	×	キリスト教
16	女性	子ども			まだいせん	アジア	南アジア	途上国	ヒンディー語	ナマステ	識字者			×	ヒンズー教
17	女性	子ども		子ども		アジア	東アジア	途上国	中国語	ニーハオ	識字者	△		×	キリスト教
18	女性	子ども			まだいせん	アジア	東アジア	途上国	中国語	ニーハオ	非識字者	×	×	×	キリスト教など
19	女性	子ども		子ども		アジア	東アジア	途上国	中国語	ニーハオ	識字者			○	仏教
20	男性				まだいせん	アフリカ		途上国	ヨルバ語	エ カサンウ	識字者			×	イスラム教
21	男性				まだいせん	アフリカ		途上国	スペイン語	オラ	非識字者	×	×	64%	キリスト教など
22	男性			子ども	まだいせん	アフリカ		途上国	フランス語	ボンジュール	識字者			×	キリスト教
23	女性				まだいせん	アフリカ		途上国	アラビア語	アッサラムレイクム	識字者	△	×	×	イスラム教
24	女性			子ども	まだいせん	アフリカ		途上国	スワヒリ語	ジャンボ	非識字者	×	×	×	キリスト教など
25	女性			子ども	まだいせん	オセアニア		途上国	フランス語	ボンジュール	非識字者	△		×	キリスト教など
26	男性	お年寄り				北アメリカ		先進国	英語	ハロー	識字者			○	キリスト教
27	女性				まだいせん	アジア	南アジア	途上国	英語	ハロー	識字者			×	イスラム教
28	女性		子ども			北アメリカ		先進国	英語	ハロー	識字者			×	キリスト教など
29	男性		お年寄り	子ども		南アメリカ		途上国	スペイン語	オラ	識字者	△	×	×	キリスト教など
30	女性		お年寄り			南アメリカ		途上国	スペイン語	オラ	識字者	△	×	×	キリスト教など
31	男性		子ども			ヨーロッパ		先進国	ポルトガル語	オラー	識字者			×	キリスト教
32	男性		子ども			ヨーロッパ		先進国	オランダ語	フデミダフ	識字者			○	キリスト教
33	女性		お年寄り			ヨーロッパ		途上国	ロシア語	ドーブル ジェーニ	識字者		△(7%		キリスト教
34	女性		子ども			ヨーロッパ		先進国	英語	ハロー	識字者			○	キリスト教

Workshop on Community Facilitation

Sep 15, 2009
at Konan High School
By Motoyuki Nishida
Expert on Community Facilitation

Contents of Presentation

- Introduce
- What is “Development”?
 - *Rich or poor?*
 - *Developed or Developing?*
- What we do in future?
 - Brief introduction of Development activity
 - Components of development activity
 - Achievement of Technical Cooperation
- *What we need to do.*

Introduce

Motoyuki Nishida

Birth 30 Dec, 1965 Tokyo Japan

- 1987-1991 Junior Expert on automobile mechanic lecture at "Pusat Pemeliharaan Dadah" Negeri Sembilan, Malaysia
- 1994-1997 Coordinator of JICA dispatch volunteer program, Kuala Lumpur Malaysia
- 1997 General Manager for IC Network, consultant company, Kuala Lumpur Malaysia
- 1998-2000 Aid program expert for JICA, Jakarta Indonesia
- 2000-2003 Project Formulation Advisor on NGO collaborations for JICA, Jakarta Indonesia
- 2004-2006 JICA Expert on Community Development Advisor for PKPM-BAPPENAS-JICA
- 2008-2009 JICA Expert on Community Facilitation for Ministry of Marine Affairs and Fisheries Indonesia



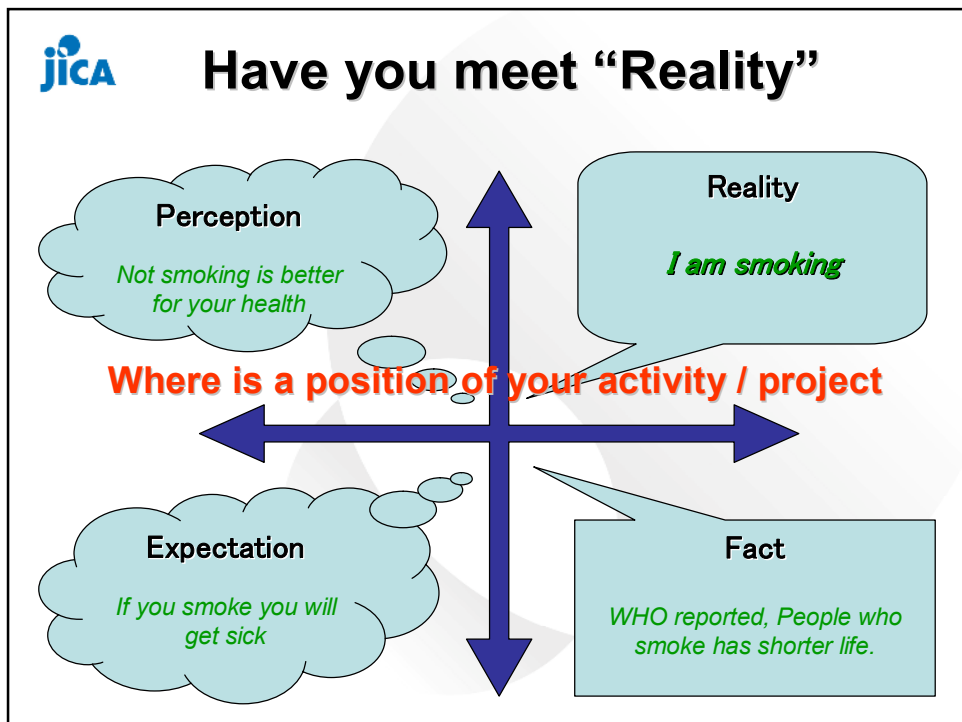


Are you satisfaction this condition?



What do they want?







What you can doing?

- When you are hungry?
- When you are tired?
- When you are sleepy?
- When you met some difficulty?

What you will do?

Lets try to think with people.



The Promotion of the sustainable Coastal Fisheries
~ KASABUA WEKI ~
Dinas Kelautan dan Perikanan Kabupaten BIMA



Exercise

- Partnership
- Participatory Approach
- Facilitator
- Lets do it !!

Why we can meet it?

If I see it, I will it.

If I listen to it, I will it.

If I write it, I will it.

If I find it, I will it.



The Promotion of the sustainable Coastal Fisheries
~ KASABUA WEKI ~
Dinas Kelautan dan Perikanan Kabupaten BIMA



Partnership Building



Definition of Partnership

Partner - ship

“Partners” are persons or organizations that have a common purpose with you and do something together.

“Ship” refers to an object in which passengers, having the same direction of journey, share common place and destiny.

Thus, **“Partnership”** can be defined as the situation that people who have the same purpose share the common occasion.



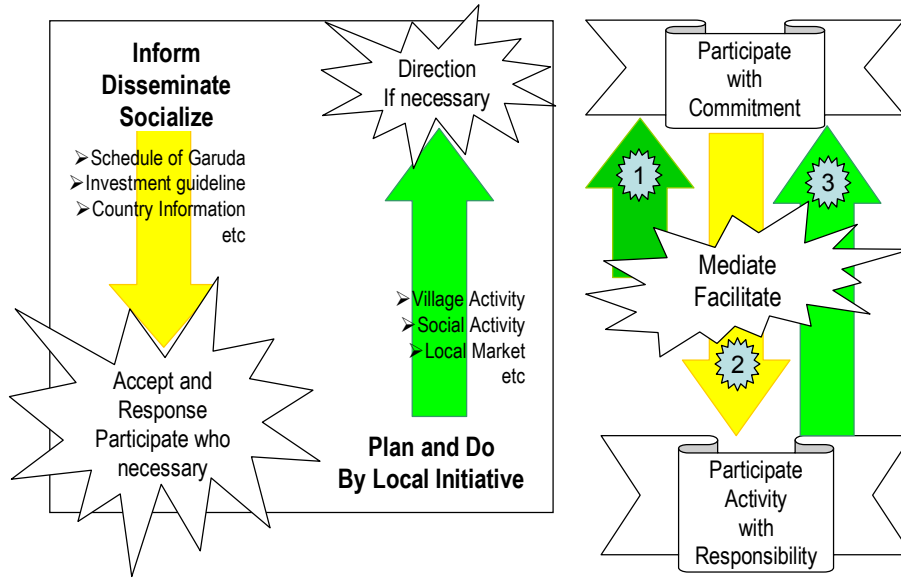
The Promotion of the sustainable Coastal Fisheries
~ KASABUA WEKI ~
Dinas Kelautan dan Perikanan Kabupaten BIMA



Participation



Pattern of participations



The Promotion of the sustainable Coastal Fisheries
 ~ KASABUA WEKI ~
 Dinas Kelautan dan Perikanan Kabupaten BIMA



Facilitator



Definition of Facilitate

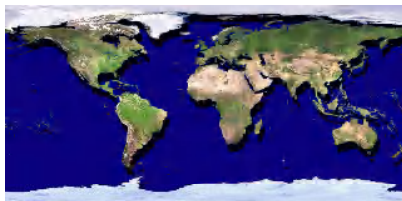
Facilit - ate

“Facilis” are assist, help, aid to make easier.

“-ate” refers to a complement in which word become activate to action.

Thus, **“Facilitator”** can be defined as the situation that people who can make easier among deferent type of occasion.

Facilitation

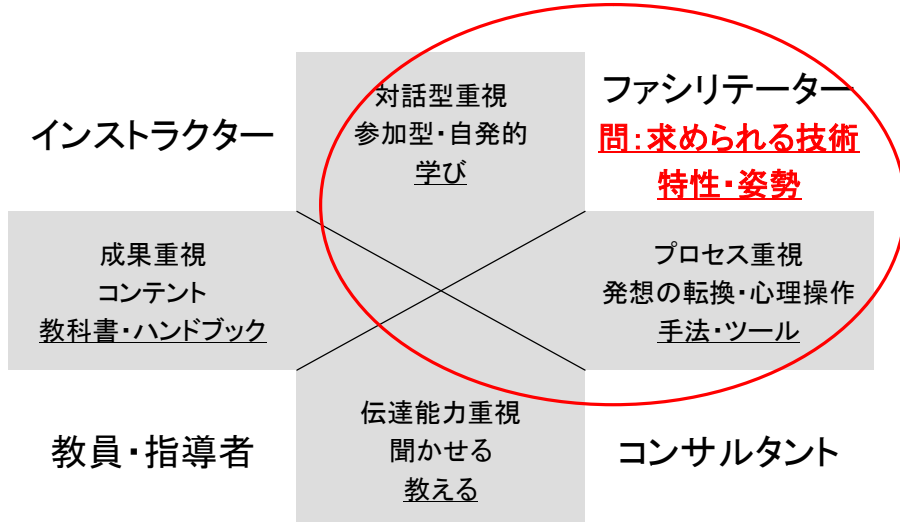


What kind of skill will need for Community Development



- How to become partner?
- How to community find the issue?
- How to community realized issue?
- How to community solve the problem?
- How to community optimized their experience?

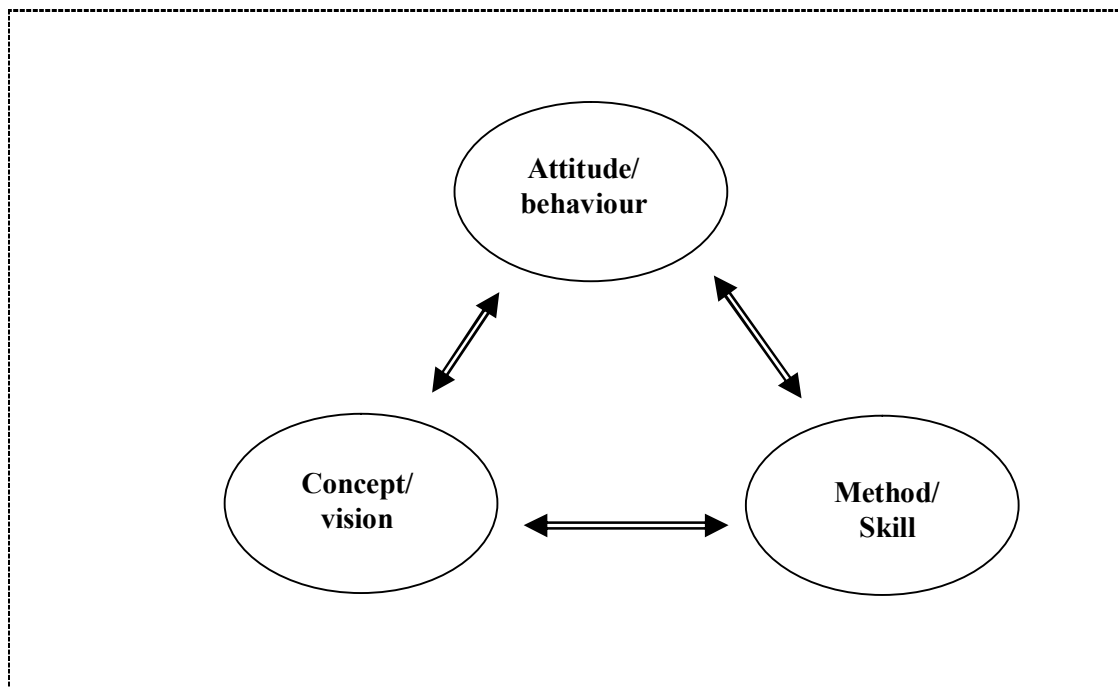
Role and Function



Brief Introduction To Participatory Rural Appraisal [PRA]

PRA can be described as a family of approaches, methods and behaviours that enable rural/urban people to express and analyse the realities of their lives and conditions, to plan themselves what action to take, and to monitor and evaluate the results.

Its methods have evolved from Rapid Rural Appraisal (RRA). The difference is that PRA emphasises processes, which empower local people, whereas RRA is mainly seen as a means for outsiders to gather information. The terminology is confusing and there is much debate about what constitutes "real" PRA. The key elements of PRA are the methods used, and - most importantly - the behaviour and attitudes of those who facilitate it.



Prepared by
Kamal Phuyal
PRA Training Facilitator
Nepal

What is PRA?

The past decade has witnessed a quiet methodological revolution in rural research and action, both in theory and practice. In recent years there has been a rapid expansion of new participatory methods and approaches in the context of sustainable development. There is now a transformation from top-down to bottom-up, from centralized standardization to rural diversity, and from blue print to learning process. The participatory approaches have drawn on many well-established traditions that have put participation, action research and adult education at the forefront of attempts to emancipate disempowered people. To the wider body of development programs, projects and initiatives, these approaches represent a significant departure from standard practices. Likewise, there has been a change in ways of carrying out research, from extractive survey questionnaires to participatory appraisal and analysis. In a growing number of government and non-government institutions, extractive research is being complemented, and even replaced, by investigation and analysis by local people themselves. Prominent in these approach have been Rapid Rural Appraisal [RRA], followed by Participatory Rural Appraisal (PRA). PRA methods are being used not just for local people to inform outsiders, but also for the people themselves to analyse their situation.

PRA can be described as a family of approaches, methods and behaviours that enable rural/urban people to express and analyse the realities of their lives and conditions, to plan themselves what action to take, and to monitor and evaluate the results. Its methods have evolved from Rapid Rural Appraisal (RRA). The difference is that PRA emphasises processes, which empower local people, whereas RRA is mainly seen as a means for outsiders to gather information. The terminology is confusing and there is much debate about what constitutes "real" PRA. The key elements of PRA are the methods used, and - most importantly - the behaviour and attitudes of those who facilitate it.

Methods - PRA employs a wide range of methods to enable people to express and share information, and to stimulate discussion and analysis. Many are visually based, involving local people in creating, for example:

- maps showing who lives where and the location of important local features and resources such as water, forests, schools and other services;
- flow diagrams to indicate linkages, sequences, causes, effects, problems and solutions;
- seasonal calendars showing how food availability, workloads, family health, prices, wages and other factors vary during the year;

PRA activities usually take place in groups, working on the ground or on paper. The ground is more participatory, and helps empower those who are not literate. Visual techniques provide scope for creativity and encourage a frank exchange of views. They also allow crosschecking. Using a combination of PRA methods a very detailed picture can be built up, one that expresses the complexity and diversity of local people's realities far better than conventional survey techniques such as questionnaires.

PRA depends on facilitators acting as convenors and catalysts, but without dominating the process. Many find this difficult. They must take time, show respect, be open and self-critical, and learn not to interrupt. They need to have confidence that local people, whether they are literate or not, women or men, rich or poor, are capable of carrying out their own analysis.

Personal attitude and behaviour of the development professionals are very important for true participation. Proper attitude and behaviour is more important than knowing how to apply the PRA tools. Past experience has shown that the success of any project depends, in many ways, on the attitude and behaviour of the staff involved in the project. In order to empower the poor people, we the project staff, as change agents should first change our own behaviour and attitude, learn to interact with each other in new ways. Learn not to become controllers, teachers or ones to transfer new technology, but become convenors, facilitators and supporters. This will help us to play a facilitating role to enable the weak and marginalized people to express themselves and analyse their realities. This will also help the community people to make their own plans and implement the planned activities. For this reason, it is necessary for us to think and behave differently and change our own attitude. (Robert Chambers, 1996).

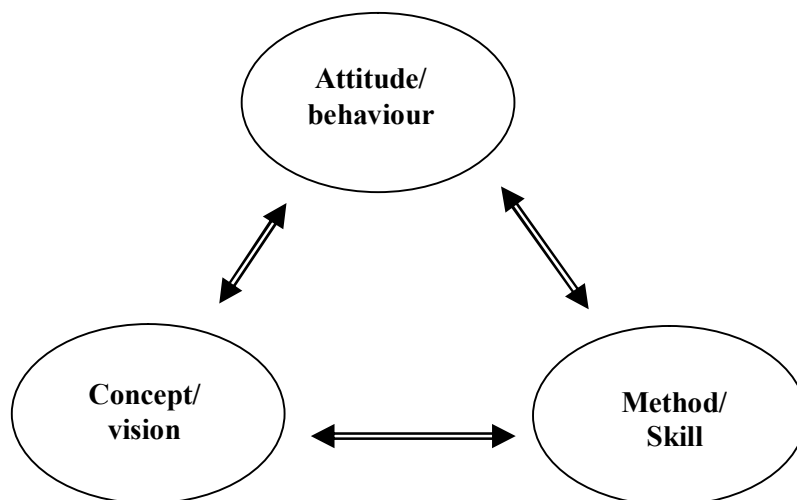
PRA versus other traditional research methods:

Survey research is the most popular social research method, and is commonly used by universities and research institutions, as well as government and non-governmental organizations. It derives much of its popularity from its formal and standardized research techniques, which produce quantifiable, representative, verifiable, and comparable data, which can be statistically analysed. Survey enumerators do not have to make many independent decisions and, if well trained, can collect the data without requiring the primary researcher to take part in the data collection in the field.

The main advantages of PRA over conventional survey research are its level of community participation, short duration, and low costs. While data collection by sample surveys sometimes requires less time, data analysis almost always takes more time. Data must be coded, entered into a computer, and then analysed in separate steps and at places removed from the research site. Once data collection has been completed it is very difficult and costly to collect missed or wrongly recorded information, as this would require sending the team back into the field. The costs of obtaining information contained in formal surveys often exceed the value of the data. Survey research also suffers from the disadvantages of its inflexibility and potential superficiality. Its pre-designed and fixed questionnaires do not allow progressive learning during data collection in the field, and make it difficult to gain a deeper understanding of social processes. Some major differences between PRA and other traditional methods can be described as:

Traditional methods	PRA
• Time consuming • High cost • 'You' and 'We' feeling between researchers and beneficiaries • Analysis by outsiders • Ultimate outcome is research for researchers • Outsiders' (experts) idea is prime • Method centered	• Short duration • Low cost • 'Our research' feeling • On the spot analysis (first-level analysis) • Active participation of concerned people in analysis • Direct contact between researcher and beneficiaries • Research for better planning/programme • Respect to local people's knowledge and idea • People centered

Components of PRA



Attitude/behaviour:

- Handover the stick
- Have 'they can do it' feeling
- Facilitate rather than teach/lead
- Listen to local people
- Use your own best judgement at all times
- Respect people's ideas
- Unlearn
- Relax
- Embrace error & appreciate falling forward concept
- Do not rush

Concept/vision:

- Social analysis: understanding social structure including diversities in society; caste system/race, economic status, religion, culture, gender, age group, occupation, interest, etc.
- PRA Vs other methods
- Why PRA?
- Participation and participatory approach
- Whose participation?
- Political aspect of PRA

Methods/skill:

- Method: interview, mapping, model, ranking, scoring, analysis, diagram, observation, etc.
- Skill: way to use tools, sequence of using tools – how to use tools, where to use tools, when to use tools? etc.

Sources of PRA

1. Activist participatory research

- inspired by Paulo Freire (1968)
- enhance people's awareness creating joint dialogue and research
- respect and activate people's creativeness
- outsiders play roles of catalyst and facilitators

2. Agro-ecosystem analysis

- was developed in Thailand by Gordon Conway and colleagues and used from 1978 onwards
- draws on systematic and ecological thinking, combining the analysis of systems (productivity, stability, sustainability, equity)
- contribution of transect, mapping, diagramming, scoring and ranking

3. Applied anthropology

- more recognised in the 1980s
- concerned with understanding rather than changing
- appreciate better the richness and validity of rural people's knowledge
- used time line

4. Field research on farming systems

- farmers' participation in agricultural research
- focus especially on complex, diverse and risk prone farming systems
- application of seasonal calendar

5. Rapid rural appraisal

- initiated in the 1970s
- respect and use local people's knowledge
- started with the dissatisfaction with the biases inherent in the "rural development tourism" approach
- cost-effective and timely

RRA and PRA compared

	RRA	PRA
Major development	Late 1970s, 1980s	Late 1980s, 1990s
Major innovators	Universities	NGOs
Main users	Aid agencies, Universities	NGOs, Government field organisations
Key resource earlier overlooked	Local people's knowledge	Local people's capabilities
Main innovation	Methods	Behaviour
Outsiders' mode	Eliciting information	Facilitating process
Objectives	Data collection	Empowerment
Main actors	Outsiders	Local people
Longer-term outcomes	Plans, projects, publications	Sustainable local action and institutions

Sources: Discussion paper 351, by R. Chambers & Whose reality counts, by R. Chambers

Major reversal and realities:

- **From close to open:** from the knowledge, categories and values of outsider professionals to those of insider local people. Giving preference to insiders' ideas.
- **From measuring to comparing:** normally professional people intend to make absolute measurements. But, PRA tries to identify trends or changes, or conditions compared between households or between places, measurements are made either at different times, of different things or in different places.
- **From individual to group:** sharing local situation with group not with an individual. Local people discuss, interact and learn from sharing and make an idea about their situation.
- **From verbal to visual:** use mapping, diagramming, comparing/ranking methods are used in order to make the process easy and relaxing for even those who are illiterate and marginalized.
- **From higher to lower:** Intend to go to lower level always.
- **From reserve to rapport, and frustration to fun:** tries to build rapport with local people and also make the process fun rather than long questionnaire type of boring process.

• About PRA Tools

Mapping:

1. Social Map
2. Resource Map
3. Transect Map/Walk
4. Mobility Map

Diagramming:

1. Flow Diagram
2. Pie Diagram
3. Venn Diagram
4. Trend Diagram
5. Seasonal Calendar
6. Problem Tree
7. Institutional Diagram

Ranking:

1. Well-being Ranking (Wealth Ranking)
2. Preference Ranking [a. Pair-wise Ranking b. Direct Matrix Ranking]

Others:

1. Time Line
2. Semi-Structured Interview (SSI)
3. Focus Group Discussion (FGD)

Mobility map:

Contacts with the outside world and decision-making power in a community are often closely linked with the help of this tool. Spatial mobility in many societies can be used as an indicator for a person's contact, with and knowledge of, the outside world and his authority in the community. Moreover, this tool is exercised to gain knowledge about the mobility of the villagers. This exercise helps the outsiders understand about the mobility patterns of the community people, the different places the people visit for different kinds of services. This tool can also be used to triangulate the information provided by well-being ranking.

Time line:

Time line reveal important information for understanding the present situation by linking it with past. It provides a summary overview of the key historical events in a community and their importance for the present situation.

Venn-diagram:

A Venn diagram shows the key institutions and individuals and their relationships and importance for decision-making. This tool can be applied in order to analyse the power structure of a community and also to analyse such situation of a particular organisation.

Pair-wise ranking:

Pair-wise ranking allows us to determine the main problems or preferences of individuals, or a group of people, identify their ranking criteria, and easily compare the priorities of different individuals.

If there are too many items on the ranking list the ranking exercise will take a lot of time and the interviewee may get tired and bored, in which case the ranking may be inconsistent and the information will be less valuable. If using real-life samples rather than cards make sure they are of evenly good quality. Otherwise the specific condition of the sample might influence the judgement of the interviewee. In this situation pair-wise ranking help to rank properly in participatory manner.

Transect walk:

A transect is a diagram of main land-use zones. It compares the main features, resources, uses, and problems and opportunities available in different zones. It also can be used to analyse the existing problems and available to resolute the problems in different sector of an organisation in participatory manner.

Note: The explanation of only 5 tools of PRA has been given which will be practiced during the training period.

The use and abuse of PRA

Unfortunately, there has been much abuse of PRA by outsiders keen only to extract information quickly, and use it for their own purposes. Such practice is unethical because local people are brought into a process, in which expectations are raised, and then frustrated, if no action or follow-up results. To avoid this, those wishing to use PRA methods in a purely extractive way need to be transparent about their intentions, and refrain from calling what they do PRA. In PRA, facilitators act as a catalyst, but it up to local people to decide what to do with the information and analysis they generate. Outsiders may choose to use PRA findings - for example, to influence policy or for research purposes. In all cases, however, there must be a commitment on the part of the facilitating organisation to do its best to support, if requested to do so, the actions that local people have decided on.

The horizontal expansion of PRA has been so rapid and many comments are being made regarding its bad use. There are real dangers in expanding the use of PRA too quickly. Experience has shown that:

- sudden scaling up risks discrediting PRA and alienating the local people who take part, especially if it involves introducing top-down, standardised, text book approaches - something that is contrary to the whole ethos of PRA;
- since the attitudes and behaviour of the outsiders facilitating PRA are so crucial, training to encourage and reward the right attitudes and behaviour should be a central component in any scaling up effort;
- attempts to incorporate PRA into development programmes should start in pilot areas so that experience can be gained and opportunities be provided for learning and training;
- scaling up needs to go hand-in-hand with the nurturing of local, community-based institutions, without which PRA cannot be firmly rooted in the longer term.

PRA is not the panacea for development. It can and has been used badly. At worst it can be little more than a fad and a fraud; yet another way of creating jobs for consultants in the name of development. Used well, however, it has a capacity to change perceptions and influence policy. Most important, for those in positions of authority and power, it can build and stiffen their commitment to make it not their needs and priorities that count, but those of the poor.

References:

1. Chambers, Robert (1995), 'Discussion paper 351'
2. Chambers, Robert (1997), 'Whose reality counts?'
3. Mukharjee, Neela et al (1997), 'PRA and community participation'
4. Phuyal, Kamal – various PRA training reports
5. Workshop proceeding, Bangalore, (1996), 'Attitude and behavioural change in PRA'
6. A Training Manual..., 1991, PRA for community development, SCF UK

とうふ （僕らでつくる、僕らのまち）

::*:*:*:*:*:*:*

Transition

Organic

Facilitation

Unit

::*:*:*:*:*:*:*

On Demand 参加型国際理解教育 記録

はじめに

1970年代より、国際理解、国際協力などについて学校教育に取り入れ平和を考える機会が顕著に増えてきている。しかし「国際理解教育」の推進は、各県、各校、様々な異なる取り組みがされているのが現状である。

1987年に青年海外協力隊として国際協力に参加して以来、日本に帰国した際には、任国での生活や習慣、任国の活動などについて可能な範囲で各地の教育機関が推進している中・高等学校を対象とした国際理解教育に協力してきた。

小・中・高等学生を対象とした「国際理解教育」に参加・実施していく中で、各地・各校が目指す国際理解教育の推進の相違に加え、近年では、生徒たちが持つ「国際協力」「開発」に対する世界観が変化していることも顕著に現れるようになってきていることから、「国際理解教育」の推進において、よりいっそうデマンドを重視した国際理解教育の推進と実践、さらには方法について配慮することを痛感した。

「開発」とは

一般的に「開発」とは、リゾート開発、ゴルフ場開発、工業開発などといった工業化推進による経済成長（経済開発）のことを表現しており、地球環境、平和や人権などを開発の中心と捉えている人は少なかった。

ところが、国際理解教育の推進により、近年の中・高等学生の中には、地球環境、平和や人権、ジェンダーなどへの取り組みも「開発」の一環であることを認識している生徒が増えている。

本記録は、インドネシア共和国（日本人学校）静岡県の中・高校と異なる環境で就学している生徒に対し、地域の「国際理解教育」に取り組みを前提にして「共に学び一緒に考える」国際理解教育の記録をまとめたものである。

<目次> ケーススタディ

事例 1 :	インドネシア国日本人学校 中学部 2 年生	2005 年
事例 2 :	インドネシア国日本人学校 中学部 3 年生	2006 年
事例 3 :	静岡県磐田市 第一中学校 1 年生	2007 年
事例 4 :	静岡県立湖南高等学校 英語科 3 年	2009 年

本事例集は、2004 年から 2009 年の 5 年間に TOFU が実施した小・中・高等学生向けの記録を総括したものである。

なお、事例の中には報告書として発表されていないものもあるため、本報告書では、活動の記録が整理されているものを中心に事例報告を行う。

<特徴>

「国際理解教育」の普及と推進にあたり、様々な手法、ツールが紹介されているが、実際に教員がその手法を用いて国際理解教育を推進することは、時間的・物理的に困難である。また、ワークショップ、講義、講演に参加する生徒についても、学校、地域、環境が一樣ではないことから、On Demand 参加型国際理解教育は、

- ① 生徒を中心とした「国際理解教育」の実施
 - ② 学校（教員）の指導方針（進捗）に配慮して実施
 - ③ 地域・環境を取り入れ、ワークショップ、講義、講演後に実践可能な情報の提供

上記に配慮して実施する「参加型のワークショップ」である。

事例 1 : インドネシア国日本人学校 中学部 2年生 2005年

背景 :

両親の海外赴任がきっかけでインドネシア共和国に滞在している日本人児童が通うジャカルタ日本人学校 (Jakarta Japanese School : JJS) では、ホームステイプログラムや現地の日系企業訪問などを通じて異文化理解、国際理解教育を推進していた。
本ワークショップは、JJS 中学部教師会より日本政府が実施しているインドネシアに対する援助、国際協力について紹介する要請に基づき実施されたものである。

ワークショップ実施の準備 :

異文化理解教育、国際協力などの紹介を行うことを主目的としてワークショップ実施の準備が進められたが、準備の段階において明確になった点は以下の通りである。

1. 生徒は海外旅行の経験が豊富である。
 2. インドネシア国内の旅行を通じ「異国」であることを充分理解している。
 3. 通学、買い物を通して首都ジャカルタの貧富の差を体感している。
 4. お手伝い、運転手などを雇用しているため外国人との接点が多い。
- したがって、どんな「国際」を「理解」すべきか？ と言うことが課題となる。

ワークショップの方向性

1. 自分たちが住んでいるインドネシアを客観的に見る機会を作る。
2. 自分の生活範囲だけがインドネシアで無いことを体感する。

ワークショップ概要

件名 : 開発教育ワークショップ

「もし世界が 100 人の村だったら？」 (インドネシア国編)

目的 : インドネシアの現状をシミュレーションを通じて体感し理解と認識を深める。
参加型手法を通じて個人が培ってきた知識を活かして理解、考察する力を養う。
(知ること、考えること、変わり行動すること)

活動内容と個別目標

1. アイスブレイキング
「行ったことのある所、行ってみたい所」
参加者同士の雰囲気のを和らげ、ワークショップでの発言、行動を活発にすることを目的とした簡単なアクティビティを行う。
2. シミュレーション
「インドネシアがもし 100 人の国だったら」に描かれた世界の現実を、疑似体験という方法で経験し、インドネシアには多様な言語や文化を持つ人々が住んでおり、そこには大きな貧富の格差が存在することを体験的に学び、私達が暮らす環境 (どこに位置されているか) について考える。
3. フィードバック
ワークショップを通じて得た新しい発見を参加者間で発表することでコミュ

ニケーション力を養う。
また、ワークショップの参加前・後で気付いたことを共有し、今後の観察力に役立てる。

日時： 平成 17 年 11 月 18 日（金曜日） 6 時限目

場所： 中学校 2 年 1 組教室

参加者： 生徒、教員

ファシリテーター： 西田 基行（JICA 専門家）

参考資料： JJS 開発教育ワークショップ報告書

事例 2 : インドネシア国日本人学校 中学部 3 年生 2006 年

背景 :

ジャカルタ日本人学校（Jakarta Japanese School : JJS）では、高校受験を控えた中学 3 年生に対する進路指導が行われていた。
家庭の事情でインドネシアに残って進学する生徒、帰国して進学する生徒など進学先は、日本国内で就学している中学三年生とは大きく異なり「すべての学校」が進学先候補と言っても過言ではない状況にあった。
一方で、インドネシアで働く日本人の職種は、国際職が強く、言い換えれば日本国内には存在しない職業などが存在している。
これら状況に対し、海外で活動している日本人の職業に対する理解と認識を深めることが求められていた。

ワークショップ実施の準備 :

インドネシア国内で活動する法人は、約 1 万人いるが、その分類は、政府関係（援助）と民間企業という 2 類である。
進路指導を担当する教師と共に、紹介する職業についての検討が行われ、民間企業としては、金融、サービス、製造の 3 分野とし、政府関係機関は援助実施機関となった。
（市役所等の行政サービス部門は基本的に存在していないため）

ワークショップの方向性

上記状況においては、日本国内の行政サービスと海外における行政サービスの相違を明確にすることが求められるため

1. 具体的な活動内容を伝えることが求められる。
2. 体験を通じて、政府機関の仕事を理解する。

これら方向性に基づき、演習を通じたワークショップを実施することとなった。

ワークショップ概要

件名 : 政府援助（職員）体験学習
 「もし政府職員だったら？」（開発援助の模擬体験）

目的 : 日本国内の行政と海外の行政の相違を明確に理解する。
 国際協力の現状を疑似体験を通じて体感する。

活動内容と個別目標

1. グループワーク
インドネシア人職員の協力を得て、架空の村を演出する。
3 つのグループに別れ、民族の異なる村を作る。
村人との対話を通じて、村人の状況を把握する。
聞き出した情報をもとに村の課題を分析する。
2. プレゼンテーション
各グループ毎に調べた内容を発表する。

1. 村の状態
2. 村の問題
3. 開発の課題

発表後、村人役となったインドネシア人職員の感想を聞く

3. フィードバック

国際協力の現場で行っている業務についての解説、補足説明を行い、日本国内の行政サービスとの相違を各生徒に考えてもらう。

日時： 2006年7月11日 （1日体験）

場所： インドネシア国国家開発計画庁 JICA プロジェクト事務所

参加者： 生徒、インドネシア政府職員

ファシリテーター： 和田 信明（JICA 専門家）
西田 基行（JICA 専門家）

<写真>



村人へのインタビュー



村人に変装した政府職員



聞き取り事項の整理



情報の共有と意見交換



調査結果の発表



行政（政府）職員体験学習に参加した
JJS 中学部3年生と JICA 専門家、インドネ
シア政府職員

背景：

静岡県磐田市第一中学校（1 年生）では、ボランティア活動参加の推進に強化しており、市・県行政が実施する様々な市民活動に参加している。
2007 年 1 学期、市立第一中学校 2 学年の社会科では、世界地理の授業としてユーラシア大陸および東南アジア地域についての学習を行っていた。
第一中学校より現行の社会科教育を助長する内容でのボランティア活動や国際理解教育を推進するワークショップ（授業）の要望があった。

ワークショップ実施の準備：

中学 1 年生の社会科（世界地理）の指導進捗状況について情報共有を行い、聞き取った内容を元に東南アジア諸国に対する理解を深めるワークショップをデザインした。
また、異文化交流へのボランティア活動参加を促すことを目的に任国事情およびボランティア活動についての補足説明を行うこととなった。

なお、当初計画では「異文化理解ワークショップ」の開催は全 5 クラス中、2 クラスを対象としていた。

ワークショップの方向性

上記背景よりデザインしたワークショップは以下のとおり

1. 東南アジア諸国を客観的に考察し、体感を通じた世界地理への理解を深める
3. 地域特性および民族・言語・宗教などの多様性の体験を通じて世界を理解する。

これら方向性に基づき、演習を通じたワークショップを実施することとなった。

ワークショップ概要

件名： 1. 民族多様性の紹介
衣装を用いた民族多様性の紹介

2. 開発教育ワークショップ
「もし世界が 100 人の村だったら？」

目的： 新聞紙で作った 5 大陸に疑似世界を作り、東南アジア地域を理解する。
（シミュレーションによる疑似世界を体感する）

活動内容と個別目標

1. 民族多様性を考える
インドネシア国内各地の伝統織物を紹介し、地域ごとに異なる意義を考える。
（多様性を認識する）
2. シミュレーション
「世界がもし 100 人の国だったら」に描かれた世界の現実を、疑似体験という方法で経験し、インドネシアには多様な言語や文化を持つ人々が住んでお

り、そこには大きな貧富の格差が存在することを体験的に学び、私達が暮らす環境（どこに位置されているか）について考える。

3. フィードバック

ワークショップを通じて得た新しい発見を参加者間で発表することでコミュニケーション力を養う。

フィードバック結果については、ワークショップの依頼を行った学校教員の評価を行い、外部講師による教育参加への質的確保に努める。

なお、フィードバック結果により、第一中学校ではワークショップの対象なかった他の3クラスに対しても授業を行うことが決定された。

日時： 平成 18 年 06 月 各クラス 1 時間（全 5 クラス）

場所： 柔剣道場

参加者： 初日 2 クラス、2 日目 3 クラス

別添 1. 一中 FB (QA)

別添 2. 一中 (資料)

別添 3. 一中 (役割カード)

別添 4. 一中 (青年海外協力隊募集案内)

ファシリテーター： 西田 基行 (JICA 専門家)

参考資料：JJS 開発教育ワークショップ報告書

↓カリマンタン島ダヤック族



↑バリ島バリ人



↑ スラベシ島トラジャ族

↓ジャワ島ジャワ人



スンバ島スンバ族↑

250 民族からなるインドネシア共和国では、民族毎に織物の特徴がある。家畜をモチーフにする部族（スンバ）、狩猟を中心とした衣装（ダヤック）などは生活様式を衣装から創造することが可能であり、参加した生徒には衣装から民族の生活様式を考える機会を提供することができる。

背景 :

静岡県立湖南高等学校英語科は、帰国子女が多く就学しているクラスである。英語教育に力を入れているクラスであり、海外へのホームステイプログラムなども実施している。

大学受験を前に、「英語」が開発協力の現場でどのように活用されているか、また国際機関、日本の援助機関などの海外での活動を理解することを通じて国際理解教育の推進に貢献することが期待され、英語科教諭より開発協力の現場で行われている「Workshop」開催の要請があった。

ワークショップ実施の準備 :

ワークショップの実施に際し、以下事項の情報共有を担当教諭と行った。

1. 生徒の進路・進学に対する関心事項
2. 開発援助の現場で用いられる「英語」の現状
3. 開発援助における手法、方法論の共有
4. 国内で実施可能な国際協力への関心事項

これら生徒のニーズをもとに以下の活動を行うこととした。

1. 参加型開発で用いられるワークショップ（英語）の実施
2. International Conference で発表されたプレゼンテーションのデモンストレーション
3. 開発援助の業種の紹介

ワークショップの方向性

教育現場で学ぶ英語だけでなく、開発援助の現場、特に相手が英語を主要言語として活用していない国や地域で英語を使って仕事をする場合の英語を理解してもらう。

参加型開発手法のデモンストレーションを通じて、開発援助の方法論を知り、自分たちの生活に活用できるようになる。よって、開発計画策定の対象地区は浜松市舞浜町とした。

実際にワークショップに参加し、実施者視点、参加者視点の双方を学べる環境を作る。

ワークショップ概要

件名 : Participatory Rural Appraisal (PRA) ワークショップ
「参加型開発計画」ワークショップ

目的 : 開発援助で多く用いられている PRA 手法を用いたワークショップを実施することで、開発援助の現場で行われている事を疑似体験するとともに、開発援助の方法論についての理解を深める。

Participatory Rural Appraisal (PRA) の関連情報については、ネパール人 Facilitator (カマール フィアル氏) のレポートをそのまま活用した。

活動内容と個別目標

1. マッピング演習

途上国で実際に行われる住民参加型の村落開発計画で用いる Mapping (Social Map, Resource Map, Transect Map/Walk, Mobility Map) の作業を行う。

なお、Mapping 作成にあたっては、

1. 50 年後である。
2. 舞阪町である。

を前提条件にし、公務員、老人、子供、学生、会社員、漁業従事者、女性などのグループに分けて舞阪 Map を作成した。(別添 写真)

2. プレゼンテーション&ディスカッション

作成した Map を各グループによって発表、記載内容の確認をグループ間で実施。

3. Mobility Map (ロールプレイ)

各グループが作成した Map を基に、50 年後の舞阪町開発のために必要な組織、意思決定の体制を生徒たちが作る。

1. 町長が生徒より選出される。
2. 町長が議会を集める。
3. 民間企業、業者、有識者など
4. NGO が生徒から選出される。

選出された生徒たちが次々に前に出て、ポストイットに役割を記述し、舞阪町開発を行うステークホルダーが選出される。

<生徒の気付き>

- ・ ほとんどが男子生徒である。
- ・ 市民が存在しない。

ロールプレイを通じて、男女共同参画、参加型などの文言を日常的に使っているものの、簡単なロールプレイの場において、それら課題への対応を実践することができないことを認識することができる。

4. プレゼンテーション

開発協力の現場で実践している参加型ワークショップの実演に続き、参加型開発ワークショップを実践するための導入として行われるプレゼンテーションの紹介を行った。

プレゼンテーション(英語)を見ながら、先に実践した参加型ワークショップとの関係性を各生徒が確認する機会となった。

日時： 平成 21 年 9 月 15 日

場所： 静岡県立湖南高校

参加者： 生徒、教員

ファシリテーター： 西田 基行（JICA 専門家）

参考資料：

別添 1. PP Materi 湖南(Nishida)

別添 2. PRA Handouts 湖南

<生徒成果品>

2060 年（51 年後）の舞阪町開発を様々な住民の視点に立って描いてみる。

1) 漁業従事者



環境保護が進み、漁場、遊泳区の整備が進み、持続的漁業の実現が図られるようになっている。

2) 女性



利便性が増す社会が実現、外国人増加に伴い浜名湖の埋め立てが進み居住地が増設されている。

3) 公務員



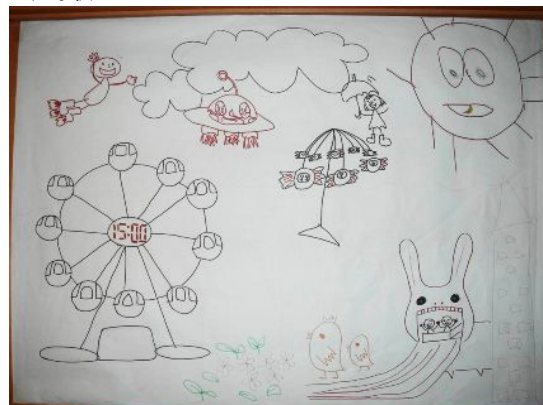
駅・庁舎・病院の統合が進み、環境保護地区が策定されている。

4) 社会人（大人会社員）



娯楽アミューズメントが増設され、自由教育の社会が実現している。

5) 子供



遊具・遊園地などの開発が行われる。

6) 学生



学校周辺の施設が整備される。

7) 老人



舞阪駅にエスカレーターが設置され、高齢者が住みやすい設備、施設が整備される。

発展途上国においても同様であるが、開発の計画づくりに「誰が参加するか？」で、その結果が大きく異なることを認識することが重要である。
生徒たちに対して提供した Mapping の演習は、これら「認識」を体感することである。参加した生徒たちは、日本国内における社会問題や開発課題などに対する知識が大変豊富であり、50 年後の課題についても現実的なものが多かった。

Mapping 作業の延長として、舞阪町開発計画策定のロールプレイを行った。
駅前を開発することで子供たちの要望に障害が発生する、浜名湖の埋め立てによる居住地確保によって舞阪漁港の漁業従事者は漁場を失う。など、本ワークショップを通じて開発計画策定への矛盾を体感することができたと考える。

最後に、インドネシア共和国で使用された「参加型開発理解」のためのプレゼンテーションを発表し、開発における参加型手法についての学習機会を提供した。（詳細は英文レポートを配布した）

まとめ

1987 年の青年海外協力隊の参加以降、海外での開発協力の体験や教訓を地域の学校、NGO・NPO など積極的に共有することに心がけてきた。体験を共有することの重要性は理解しつつも、国際理解教育の推進、各教員が目指す国際理解教育または社会科、英語科の指導方針など、教育現場の要望への配慮が重要であると考えようになった。
開発協力においても同様であるが「手法アリの国際理解教育」ではなく「参加者および企画者主体の国際理解教育」の実践が今後さらに求められると考える。
また、国際理解教育を推進する実施者においては「ひとつの方法論」に拘ることなく、要請のあった学校・団体の方針、要望から作り上げるワークショップ、セミナーの開催と、実際にワークショップに参加した生徒・教員によるフィードバック（感想）を通じた評価を行い、国際理解教育の質的確保による活動の持続性を確保することが求められると考える。
いうまでもないが、ワークショップに参加した生徒や同席した教員自身によって同様のワークショップ・セミナーが展開されることが今後の国際理解教育の推進に貢献することと考えている。
限られた時間ではあるものの、これらワークショップを要請していただいた、ジャカルタ日本人学校教諭、磐田市立第一中学校教諭、県立湖南高校教諭と各学校に感謝する。